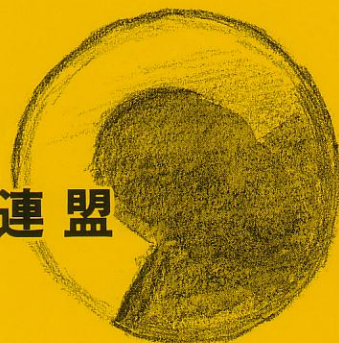




高文連

第 8 号



山口県高等学校文化連盟

高文連

第 8 号

も く じ

あいさつ	1
山口県高等学校文化連盟各部門の報告	2
第18回山口県高等学校文化祭の記録	
総合開会式	18
(音楽関係4部門)	
器楽・管弦楽部門	22
合唱部門	23
吹奏楽部門	24
マーチングバンド・バトントワリング部門	25
(日本音楽・吟詠剣詩舞部門)	27
(展示関係部門)	28
書道部門	32
美術・工芸部門	32
写真部門	33
囲碁部門	34
演劇部門	35
放送部門	37
将棋部門	39
第20回全国高等学校総合文化祭の記録	40
器楽・管弦楽部門	41
合唱部門	42
吹奏楽部門	44
マーチングバンド・バトントワリング部門	45
日本音楽部門	46
吟詠剣詩舞部門	47
美術・工芸部門	48
写真部門	49
書道部門	50
囲碁部門	51
放送部門	52
将棋部門	54
自主事業	56

参考資料

第11回全国高等学校文芸コンクール都道府県別応募一覧	63
(部門別応募状況、入賞作品数一覧、山口県受賞作品一覧)	64
平成8年度山口県高等学校文化連盟＜事業報告・会計決算書＞	65
平成9年度山口県高等学校文化連盟＜事業計画・会計予算書＞	67
山口県高等学校文化連盟規約・諸規定(会計、事務局、表彰、旅費支給基準)	69
平成8・9年度山口県高等学校文化連盟役員一覧	74
全国高文連の歌	76

ごあいさつ



山口県高等学校文化連盟

会 長 森本 紘史

昭和62年6月に発足した山口県高等学校文化連盟も今年は10年目という一つの節目を迎えました。山口県高校生の文化活動を支える組織として、今日まで多くの方々に温かいご理解、ご支援をいただきながら発展してまいりました。

本年度は、「ひろがれ未来へ 創造の輪」のテーマのもとに、将棋部門を加えた13専門部の活動が繰り広げられ、各部門の発表会を通してその成果が示されました。

平成8年6月14日に、萩市民館で開かれた総合開会式は、萩高等学校を主管校とする長北地区高等学校が一体となり、地元萩市の絶大なご支援のもと、感動的な開会式をつくりあげていただきました。山口県高等学校合唱団と管弦楽団による『大地讃頌』は、沸き上がる若者のエネルギーの力強さを表わすがごとく、会場いっぱい歌声が響きわたり、さわやかな感動で会場が包まれました。また、15・16日の音楽4部門の発表会を皮切りに各部門の発表会が県下各地で開催され、生徒が日々積み重ねた成果を披露すると共に、お互いがその良さを学び合って友情を深めることができました。今後もますます是非多くの人が、同じ高校生の催しに足を運んでくださることを願っています。

「星よ 集え輝け 北斗の地に」をテーマに、8月6日から5日間北海道で開催された全国高等学校総合文化祭には、250名の山口県代表が12部門に参加をしました。写真部門や放送部門をはじめとして、各部門における受賞のみならず、参加した全ての生徒が大きな満足感を得ることができたのは、北海道内の高校生が総力をあげ、主体的にこの大会を運営し、若者の知恵と情熱で、遠来の仲間を迎えようとした温かい思いが随所に感じ取れたからであろうと思います。

自主事業を含めて、平成8年度の県高文連の事業は、多くの関係者のご尽力、ご支援を得て無事終了いたしました。来年度は、吟詠剣詩舞部門が、独立した一つの部としては休部することになりました。生徒数が減少する中で、時期的に厳しい運営を強いられ、これからの高文連活動の在り方を考える上で大きな課題と考えます。

しかし、高校生時代に文化活動が及ぼす影響の大きさを考えたとき、一人でも多くの方がより高い文化活動を通して自己を磨き、自己を高めて欲しいものと願っています。

終わりに、この1年間終始温かいご支援、ご指導を賜りました県教育委員会に深甚なる謝意を表しますと共に、高文連活動にご協力いただきました全ての方々に心からお礼を申し上げ、発刊のごあいさつとします。

山口県高等学校文化連盟・各部門の報告

器楽・管弦楽部門

理事長 松永忠雄
(下関南高等学校教諭)

山口県高等学校文化連盟器楽・管弦楽部門では今年度次のような事業を行いました。

1. 平成8年度第18回山口県高等学校総合文化祭総合開会式において慶祝演奏として合唱部門との合同合奏

6月14日(金) 萩市民会館

曲目 「タイホイザー」より大行進曲

「大地讃頌」

指揮 矢田部一俊(美祿高校)

器楽・管弦楽部門より4校94名参加出演

2. 平成8年度第18回山口県高等学校総合文化祭音楽4部門発表会

6月15,16日(土,日) 萩市民会館

参加校8校,各校によるギター,マンドリン,管弦楽などの演奏 338名出演

3. 第20回全国高等学校総合文化祭北海道大会

8月8日(木) 札幌市民会館

山口県代表 熊毛南高等学校

(曲目 バッハ:ヴァイオリンとオーボエのための協奏曲)

4. 平成8年度山口県高等学校文化連盟器楽・管弦楽部会

12月12日(木)

下関南高等学校校長室

部会長以下,出席者9名

第16回器楽・管弦楽スプリングコンサート(山口大会),県総文,全総文,高文連表彰,役員改選などについて協議

5. 第16回山口県高等学校器楽・管弦楽スプリングコンサート

3月25日(火) 山口市民会館 参加校8校,各校によるギター,マンドリン,管弦楽などの演奏。

※ 平成8年度全国学校合奏コンクール

中国大会 最優秀賞受賞

全国大会 優秀賞第2位

下関南高等学校

(曲目 ムソルグスキー:交響曲「はげ山の一夜」)



合唱部門

理事長

石島 栄子

(野田学園高等学校教諭)

山口県高等学校文化連盟, 合唱部門に関して
行われた今年度の行事を, 報告します。

1. 山口県高等学校合唱講習会

開幕式典を控えての講習会 5月27日(日)

講師: 片山謙二(宮崎県立宮崎北高校教諭
宮崎県合唱連盟理事長)

内容: 発声と曲作り

曲目: タイホイザー「大地讃頌」

場所: 萩市民館大ホール 263名参加

2. 平成8年度第18回山口県高等学校総合文化 祭総合開会式典において慶祝演奏

6月14日(金)

下関南高校中心の管弦楽団との合同演奏

・オペラ「タンホイザー」より歌合戦の入場場
面。

・カンタータ「土の歌」より「大地讃頌」

県高校合唱団 327名

3. 平成8年度第18回山口県高等学校総合文化 祭音楽4部門発表会

6月15日(土)16日(日) 萩市民館大ホール

合唱部門より計14校出場

4. 第20回全国高校総合文化祭

8月10日

北海道厚生年金ホール

山口県代表; 野田学園高等学校合唱部

花をさがす少女

10ぴきのねずみ

5. NHK学校音楽コンクール県大会

・県大会(8/23 徳山文化会館)

・中国大会(FM放送 野田)

6. AJCL(全日本合唱連盟)コンクール

・県大会(柳井市 9/1)

・中国大会(岡山シンフォニーホール)9/29

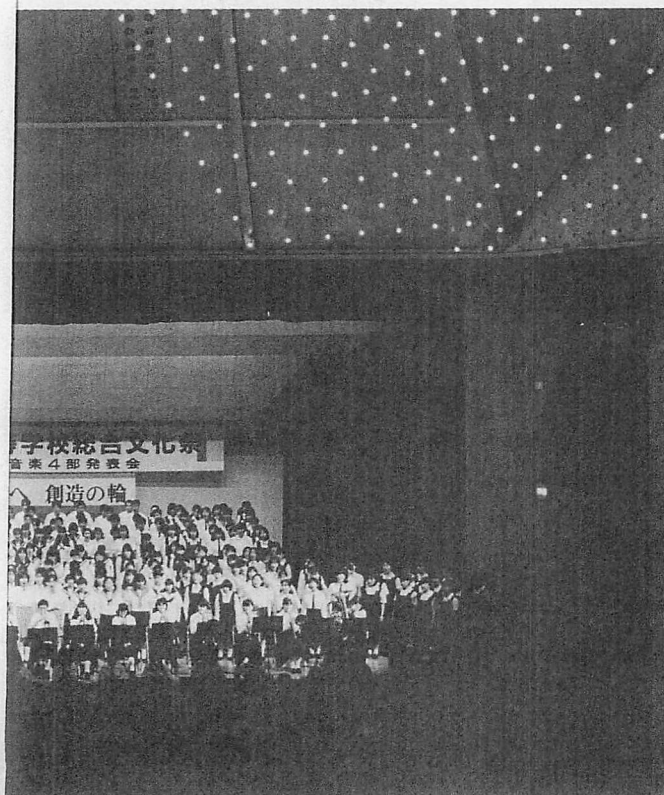
宇部中央 防府 萩 野田

・全国大会

(京都シンフォニーホール 10/26 萩高)

7. 高文連合唱部会

12月13日 野田学園高等学校



◀ 第18回山口県高等学校総合文化祭
総会開式(萩市民館)

吹奏楽部門

理事長 **椎木 浩二**
(徳山高等学校教諭)

平成8年度山口県高等学校文化連盟吹奏楽部門の活動状況を報告をいたします。

1. 県総文総合開会式

総合開会式は《ひろがれ未来へ 創造の輪》をテーマに、萩高等学校主管のもと、6月14日(金)萩市民館で盛大に開催されました。

吹奏楽部門は長北地区高等学校合同吹奏楽団を編成し、山本博資先生指揮のもとで、式典並びに慶祝演奏会に参加しました。

[式典]“ファンファーレ”“高文連の歌”

[慶祝演奏]“威風堂々”“そよ風のマーチ”

2. 県総文音楽4部門発表会・連合音楽会

総合開会式に引き続いて6月15日(土)～16日(日)の2日間、音楽4部門発表会並びに連合音楽会が同じく萩市民館で開催されました。吹奏楽部門関係では55校1855名の多くの学校や生徒達が参加し、すばらしい演奏を披露してくれました。

3. 全総文北海道大会

全総文・北海道大会吹奏楽部門は8月7日(水)～8日(木)の2日間、北海道厚生年金会館で開催されました。

山口県代表として防府高等学校吹奏楽部55名(重広昭雄先生指揮)が初日に出演し、曲目“竹取物語”“九ちゃんグラフィティー”を演奏披露しました。迫力のあるサウンドで会場から絶賛の評が聞かれました。

4. 高文連吹奏楽部会総会

本年度吹奏楽部会総会を12月9日(月)徳山高等学校で開催いたしました。県下53名の吹奏楽指導担当者が出席し、本年度事業報告や来年度事業計画、全総文「奈良大会」への参加推薦等の多

くの協議事項に対して活発な意見交換がなされました。特に、本年度は全総文への推薦内規や吹奏楽部会規約を新規制定いたしました。今後の部会運営に大いに役立つものと信じています。

5. 高文連吹奏楽部会研修会

部会総会終了後、部会研修会を開催いたしました。

日本の吹奏楽界で多大な功績や実績を積み、吹奏楽指導者としてトップの座に君臨されておられる、福岡工業大学付属高等学校吹奏楽部顧問の屋比久勲先生を講師にお招きし、「いい演奏をするための基礎指導」と題した講演をしていただきました。先生のきめ細かな基礎・基本の指導の徹底、調和のとれた人間作り等のお話は感動的でした。日頃、吹奏楽の運営や指導に頭を悩ませている我々現場の指導者にとっては大変よい勉強になりました。



吹奏楽部総会 ▶



吹奏楽部研修会 ▶



マーチングバンド・バトントワリング部門

理事長 花村 慈 照
(宇部女子高等学校教諭)

平成8年度山口県高文連マーチングバンド・バトントワリング部門の主な活動を報告します。

1. 山口県高等学校総合文化祭総合開会式

総合開会式は県立萩高等学校主管のもと6月14日(金)萩市民会館で盛大に開催されました。慶祝演奏には山口県鴻城高等学校の演奏のもと三田尻女子高等学校のバトントワリング部の演技で『トップガン』『バック・トゥ・ザ・フューチャー』の2曲を披露しました。

2. 県総文音楽祭4部門発表会・連合音楽会

総合開会式に引き続き6月15日(土)～6月16日(日)の2日間同会場で開催されました。参加校はマーチングバンドでステージドリルの演奏演技を披露したのは、県立佐波高等学校と山口県鴻城高等学校、宇部女子高等学校の3校102名と、バトントワリングの演技には早鞆高等学校、宇部女子高等学校、三田尻女子高等学校の3校67名の参加であり、すばらしい演奏、演技を披露してくれました。

3. 全国高等学校総合文化祭(北海道大会)

マーチングバンド・バトントワリング部門は8月6日(火)～8日(木)の3日間北海道札幌市で開催されました。パレードは中島公園～大通りで行われ、また部門の発表会は真駒内アイスアリーナで開催されました。各都道府県から69校の参加があり、山口県からは山口県鴻城高等学校のマーチングバンドが、バトントワリング部門には山口県合同チームとして三田尻女子高等学校と宇部女子高等学校の36名が参加し、迫力のある演奏・演技で会場から絶賛の評を受けました。



4. その他の活動

各校とも平素は地元での諸行事等々に参加し、地元のアイドル的存在である。

5. 高文連マーチングバンド・バトントワリング部総会

本年度は3月15日(金)宇部女子高等学校で開催いたしました。同部門参加校は少なく、10名の指導担当者が出席され、本年度の事業計画の反省と来年度の事業計画、全総文『北海道大会』の参加について、および県総文慶祝演奏・演技の参加校の決定等多くの協議題に活発な意見が出されました。

6. 部門の研修について

バトントワリング部門に参加されている、三田尻女子高等学校、宇部女子高等学校、早鞆高等学校の3校が一同に会して、講師として広島バトン研究所の中野久美子先生に來校していただき、技術向上の指導をおねがいしています。年約5回程度指導を受けています。

日本音楽部門

理事長 中野靖子
(中村女子高等学校教諭)

▼萩高等学校



平成8年度の山口県高等学校文化連盟日本音楽部門の主な活動を報告します。

1. 山口県高等学校総合文化祭

本年度は寝太郎節で有名な民謡の町厚狭で、厚狭高等学校主管校のもと、6月16日山陽町文化会館を会場として開催されました。

この大会には、日本音楽部門の参加はもちろんのことですが、本来なら郷土芸能部門に入るべく、早鞆高等学校の平家太鼓が昨年より加わり、会場一ぱい勇壮に轟かせてくれ、日本音楽に華を添えてくれました。

日本音楽部門も年々全国レベルに近づきつつはあるのですが、どの学校も生徒数の減で思うように練習ができないのが現状のようです。年に一度山口県の高校生が一堂に会し、奏でるこ

との楽しさ、難しさを痛感できたことは、勉強になったことと思います。

今年度の大会を開催するにあたり、準備から片付けにいたるまで、ご協力いただきました厚狭高等学校に対し、紙面をおかりしまして、心からお礼申し上げます。平成9年度の大会は、徳山高等学校を主管校として、6月16日徳山市文化会館で開催する予定です。

2. 全国高等学校総合文化祭北海道大会

8月8日～9日の2日間、北海道千歳市の千歳市民文化センターで開催されました。はじめての全国大会出場ということで、練習に余念がなく、本番でも堂々と見事な演奏をしてくれました。全国レベルの高さも知れ、良い経験ができたと思います。

吟詠剣詩舞部門

理事長 藤井美恵子
(聖光高等学校教諭)

本年度の県の総合文化祭、日本音楽・吟詠剣詩舞部門の大会は、6月16日(日)山陽町文化会館で開催された。吟詠剣詩舞部門は、参加数が年々減少し、寂しい思いをしていたところ去年はサビエル高等学校が大合吟を発表され賑やかさを取り戻し、今年も力強い発表を期待していたが今年是不参加となってしまった。指導者や顧問教師の人材に、各校共問題をかかえている部門であると痛感した。こうした状況にあって、中村女子高等学校と聖光高等学校は2校ながらよく頑

張った。今年は「原爆記念日感有り」と題した構成吟を、スライドを折り込んでの発表をし、観衆を魅了した。殊に吟に合わせた舞は、原爆の悲惨さを訴えるに十分であり、併せて平和の尊さをかみしめさせた。

この大会に先だち、6月14日(金)萩で総合開会式の慶祝演奏が盛大にとり行われましたが、この慶祝演奏では、聖光高等学校が「宝船」という祝いの吟と詩舞を披露し慶祝の会を大いに盛り上げた。



▲聖光高等学校

美術・工芸部門

理事長 庄島信基
(厚狭高等学校教諭)

平成8年度美術・工芸部門の行事について報告いたします。

1. 県高校総合文化祭開会式慶祝展示

萩市民会館入口ロビーを展示場に6月14日から16日の期間、萩、長門、美祢地区高校の作品を展示しました。各地区の風景や校内スケッチは素朴な感動を伝えてくれました。デザイン作品は各校先生の工夫のある指導で楽しい表現を楽しませてくれました。又、少ないスタッフ諸々で萩地区の田畑教諭と生徒さんには不自由をおかけしましたが、立派な展示会場を用意されたことに感謝いたします。頭を使い、体を動かし、手を動かして作品は誕生します。その生産者としての感動は、全て皆さんの中にあります。益々努力されることを願います。

2. 全国高校総合文化祭

8月7日～10日の期間、北海道立近代美術館を会場に作品展が開催されました。全国各県から選ばれた作品と共に、山口県からは『止まった時間』(土網香代・熊毛南)『樹』(森野浩子・山口)『

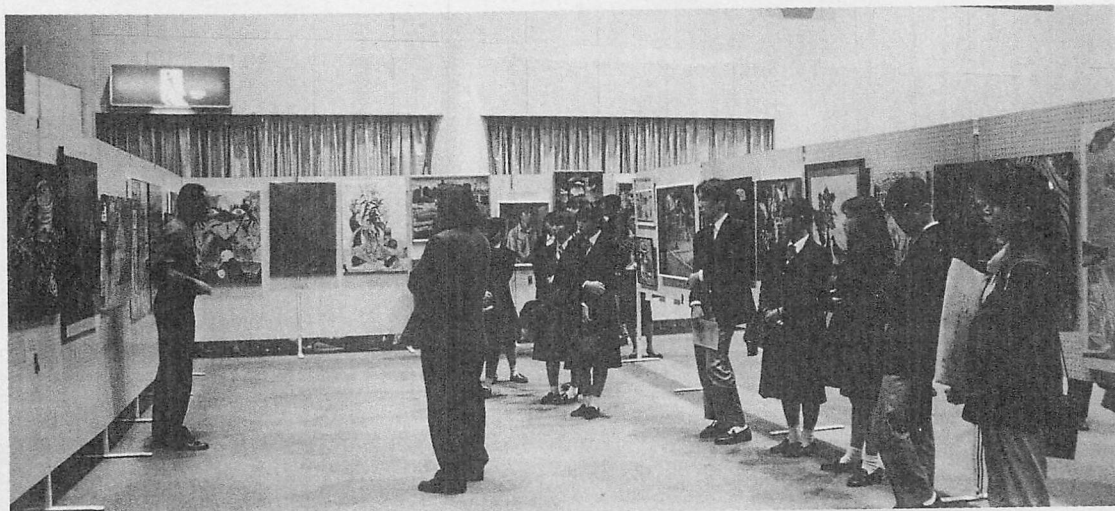
▼県総文／展示部門オープニングセレモニー



友情像』(平田隆之・西京)『自然—調和』(乙丸奈緒・萩)『STREAM』(延原安輝子・徳山)が出品されました。各自それぞれ持ち味が有り立派であったと思います。美術館をとりまく環境もすばらしく、暑い夏の中を爽やかに鑑賞できました。こうした環境を増やしていきながら、個々の文化意識を高め文化国家を確立する重要性を訴え願うものです。

3. 県高校総合文化祭展示部門

11月15日～17日の期間、美術・工芸と写真部門はデザインプラザHOFUで開催されました。詳細は主管校より報告。



▲県総文／美術・工芸部門(デザインプラザHOFU)

書道部門

理事長 荒瀬 宏
(徳山高等学校教諭)

1. 県総合開会式について

慶祝展示は、萩市民会館の広いロビーで5部門が近年になく盛大に参加した。特に書道部では本年度の全総文への出品候補作品が、半切で陳列できた。萩地区5校の作品とともに、一段と高いレベルの展示となった。

書道吟はお休みで、剣詩舞のみで見事な演技であった。

2. 山口県高等学校教員書道展について

立派な美術館を二尺八尺の長方形が見事うめ尽し、独自の書風が変化に富んだ空間を創り出した。折角の大作発表ゆえ、得意分野の成果の上に、不得意分野への勇敢な挑戦を!。賞罰のない自由で大胆な実験を!という感想を持ちました。

小作品は別室で、「漢字かな交じりの書」の課題に取り組みましたが、果たして創意は? 選文の

楽しさは? 個性的(味わい)であり得たか? 細かなことの中に、しばしば真実が発見されるとか・…?。ご用心あれ。

3. 全総文北海道大会に参加して

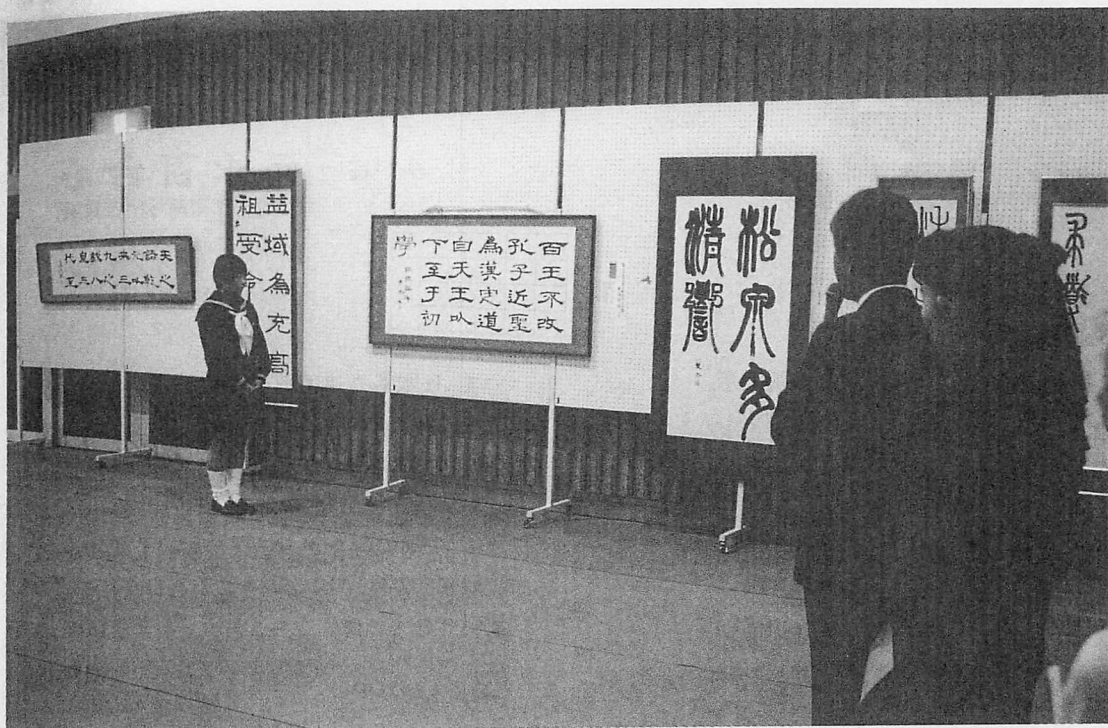
空路北の大地へ。4校4顧問と理事長計9名全員参加。会場の広さから、県内の選抜作品の倍の大きさに拡大、書き改めました。さすがに半歳の練習の成果は作品の隅々にまで活かされ、書体・書風とも多様で、他県より一層立派な作品ばかりでした。本年度は新しい試みとして、他県の高校生の感想、批評文が張り付けられ、高校生の鑑賞眼の確かさに驚きました。

各県代表者会議では、引率顧問、生徒が会場で直接投票し、優秀な作品を選抜してみてもどうか? ……と提案を繰り返しておきました。

講評会は退屈でした。百点も褒めることのに

▼県総文／書道部門(サンライフ防府)





▲書道部門 講評会風景

み終始しました。講評の語彙の少なさも不満で、生徒、教師ともに、考える有意義な1時間にしたいものです。

観光は各地を巡り、夏の北海道を満喫しました。私個人は30年ぶりの学友に会い、書芸術、書教育への真摯な想いを聞き、この道の奥深さを感じることができました。

4. 県総文展示部門発表会について

防府高校有富先生の周到な準備とお世話で、久しぶりに観客も増加し、会場の広さ一杯に作品も大型化しました。31校110点の参加があり、高校生の若さが所々に溢れていました。

講評会へも多数の生徒が参加し、二名の先生方の異なった意見が聞け、例年になく充実した会となりました。

本年度は優秀作品が多く、審査に長時間かかりましたが、どれも高校生らしい真摯な作品が選抜され、ホットしました。イジケタ作品、大人びた作品、粗雑な作品、前近代的な表装などがありましたが、日常の部活動の成果がそのまま現われるものです。一層生徒と共に苦悩する教師でありたいと思ったことでした。

次年度は、防府高(桑原由香利)下関西高(原田あゆみ)下関第一高(岡崎寛隆)萩光塩(山下美恵子)の四点が奈良東大寺廻廊へ陳列される予定です。

5. 書道部門会議の決定事項

☆新理事長は古屋元子先生(山口高)にお願いすることになりました。各地区代表世話人は取りやめ、新しく展覧会審査員として、理事長、国本(宇部工)は古屋美(厚狭)米谷(中村女子)、松田(宇部西)井上(下女短付)六名が選出されました。講評者は理事長、松田、河合(下第一)三名の先生方です。

☆部門研修は教員書道展を続行します。次年度は第二十回の記念すべき展覧会で、下関から徳山市美術博物館が予約済みです。要項はいずれ詳細にお知らせします。8月23日～28日の予定です。より多くの力作をご出品下さい。

☆展覧会における観客動員数が極端に少ないことがいつも議論されます。年度当初に生徒会の活動として、数名の遠征費を請求することから始めましょう。一人でも多くの高校生に鑑賞していただき、感性を磨いてほしいものです。

写真部門

理事長 元永百合心
(小野田工業高等学校教諭)

1. 県高校総合文化祭開会式慶祝展示

今年度は徳山高、美祢工業高校及び本校から10点を展示しました。

今年度の全国大会(札幌)に出品された5点を含め、見応えのある力作を展示し、好評を得ました。

2. 全国高校総合文化祭北海道大会

平成8年度8月4日(日)～10日(土)

北海道開拓記念館

(本県の出品作品)

徳山高校 富永泉紀『沈黙の鼓動』

小野田工業高校 武安つとむ『乱舞』

優秀賞受賞

着眼点、構図、色合い、動き等に優れている。

村岡寛之『ファイナーレ・龍』

美祢工業高校 岡崎 裕之『虚像』

最優秀賞受賞

現在の世相を現しており、面白い。

(全国大会の出品作品の賞、審査について)

今年度より激励賞30点から、最優秀賞3点、優秀賞7点、激励賞20点となった。

今年度は審査の基準に偏りがあったとの批判が続出し、上位入賞作品10点中7点がカラー作品であった。また、賞を細分化すれば、全国大会がコンテスト化し、高校生の文化活動の振興にプラスか否かが問題となっている。また、『出品作品は、他のコンテストに応募し入選したものは認めない』の文言等についても問題を残している。モラルの低下だけは避けたいものです。

3. 研修会及び撮影会

9月28日(日)ときわ湖水ホール(宇部市)にお

いて、日本報道連盟西部本部委員 宮村義明氏を講師として招き、『美しく撮るには』をテーマに研修会及び撮影会を実施しました。

参加校10校、53名参加し、県下の高校写真部の現状、全国大会などの結果について報告。

研修会では、プリントされた写真をモチーフに実例をあげてカメラポジションなどを解説、失敗例も紹介しながらアドバイスをいただいた。

ポートレートでは『七五三や成人式などの記念の日には家族が撮る方がいい。プロの腕に頼らなくても、例えば家の玄関で撮るなどとして、時代背景にも気を配ればもっといい作品ができる。』とのご指摘をいただきました。

撮影会では初めての試みとしてモデル撮影会とし、当初、尻込みしていた生徒達も2～3時間後にはポーズや背景などの注文も多くなり、撮影会は成功裏に終了しました。

4. 県総合文化祭展示部門

詳細については、本誌第18回県総文祭展示部門に記載しています。

囲碁部門

理事長

竹内 洋春

(小野田高等学校教諭)

平成8年度山口県高文連囲碁部門の主な活動は、次の4つの事業でした。

1. 県高校総合文化祭総合開会式慶祝展示

本年度は萩高等学校を主管校として萩市民館で6月14日～16日まで開催されました。囲碁部門の慶祝展示では、全国高校総文祭や県高校文

となりました。なお、団体代表決定戦・個人代表決定戦の優勝者5名は、平成9年8月8日(金)、9日(土)奈良県で行われる全国高校総文祭に出場する予定になっています。

3. 第20回全国高校総文祭囲碁部門第9回大会

平成8年8月9日(金)、10日(土)北海道江別市民会館にて開催されました。山口県からは平成7年10月に実施した県予選の優勝者5名が出場しました。なかでも今井由美子さんは全国第4位と健闘しました。

4. 県高文連囲碁部門研修会

小野田高校主管のもとで平成9年2月9日(日)小郡町の西日本公務員学校で開催されました。

渡辺堅一プロ(日本棋院六段)による来年度全国大会出場者への対局指導及び理事を中心とした指導碁を行いました。渡辺プロには対局終了後生徒達へ適切な助言をいただきました。

理事長の交替もあり大変ご迷惑をおかけした1年でした。宇部鴻城高等学校の黒瀬孝泰教頭先生や多くの先生方の御協力を心から感謝しています。来年度理事長校の防府高等学校の御活躍を期待しています。

祭の囲碁部門の初回からの戦績を大版用紙に書き展示しました。また、対局風景の写真も添えました。

2. 第18回県高校総文祭囲碁部門第8回大会兼

全国高校総文祭囲碁部門第10回大会県予選

10月27日(日)に小野田高校にて開催され、参加選手は男女合わせて56名で4回の対局を行い、最後まで熱戦を繰り上げました。その結果は

団体戦 男子優勝 防府高等学校

女子優勝 防府高等学校

団体代表決定戦

男子優勝 水津 崇文(徳山)

優勝 重田 浩司(防府)

女子優勝 秋本瑞矢江(下関南)

個人代表決定戦

男子優勝 三分一 修(下関西)

女子優勝 今井由美子(宇部女子)



▲囲碁部門研修会

演劇部門

理事長

石井末雄

(下関商業高等学校教諭)

[県全体の特徴的な動き]

(1)加盟校の減少について

県高演協への加盟校が昨年より1校減って、36校となってしまいました。内訳は、従来の加盟校が2校減って、新しく加盟した高校が1校あったためです。問題は、減った2校の原因が両校とも顧問不在によるものであるということです。宇部女子高校は、顧問であり劇作家でもある山口武信先生が退職された途端に廃部になり、下関中央工業高校は、船岩先生が一昨年転勤になり、その後、名目上の顧問のもとで、ほぼそと1年間活動が続けていましたが、今年になってついにこと切れたものです。

以上のように、高校演劇の場合、演劇活動に熱心な教員が存在するか否かが大きな鍵を握っているといえます。したがって、その打開の方法は簡単にはみつかりそうもありませんが、①恒常的にプロの劇団をまねいている市民劇場(下関と周南にある)に加入したり、②学校公演(高文連主催の地方劇団や独自にプロの劇団を招くなど)を実施したり、③その他の地方劇団やプロの劇団の公演に参加するなど、演劇に接する機会を多くふやし、演劇鑑賞の楽しさやその意義、特に演劇に本来そなわっている教育的意義を理解してもらうことが必要ではないかと思われます。

さらに生徒数の減少に伴い、部活動費全体の落ち込みが激しく、各校の顧問は予算獲得にあくせくしなければならない状況にあります。そのことが演劇部の衰退に拍車をかけているように思われます。そして、これは県下の全高校演劇部顧問の共通した悩みとなっています。

(2)入場者数の減少について

これは、もちろん今年にかぎったことではありませんが、地区大会・県大会＝県総文祭を通じて入場者がきわめて少ない状況が続いています。高校演劇にはじめて接した人に共通する感想として、「こんなにすばらしい高校演劇を、ぜひとももっと多くの人に観てほしいものです」があげられます。高校演劇の場合は、校内発表会や全国大会を除けば、ほとんどが「観客が少ない」状況にあります。練習に全エネルギーを注ぎ込み、ぎりぎりまで準備に追われる高校演劇では、わかっていても観客動員までは手が回らないというのが実情です。しかし、演劇を成立させるための一つの必須条件としての観客動員については、お互いに真剣に考えなければならない課題です。せめて参加校の部員は義務的にも他校の演劇を鑑賞させるという指導も必要ではないかと思われるます。

[地区大会について][講習会について]

費用の関係で設備の不十分な会場で開催しなければならない地区、出場校の力量の格差があいかわらず大きい地区、出場校が5～6校まで減少した地区、費用と日程の関係で8校の上演を一日で消化しなければならない(朝9時から夜の8時まで!)地区、加盟校でない生徒の熱意を汲んで試演をさせた地区など、最後の地区を除いて、さまざまな課題が山積しています。

講習会は宇部地区で開催する予定です。

放送部門

理事長

青木 幸子

(山口農業高等学校教諭)

1. 県総文祭総合開会式

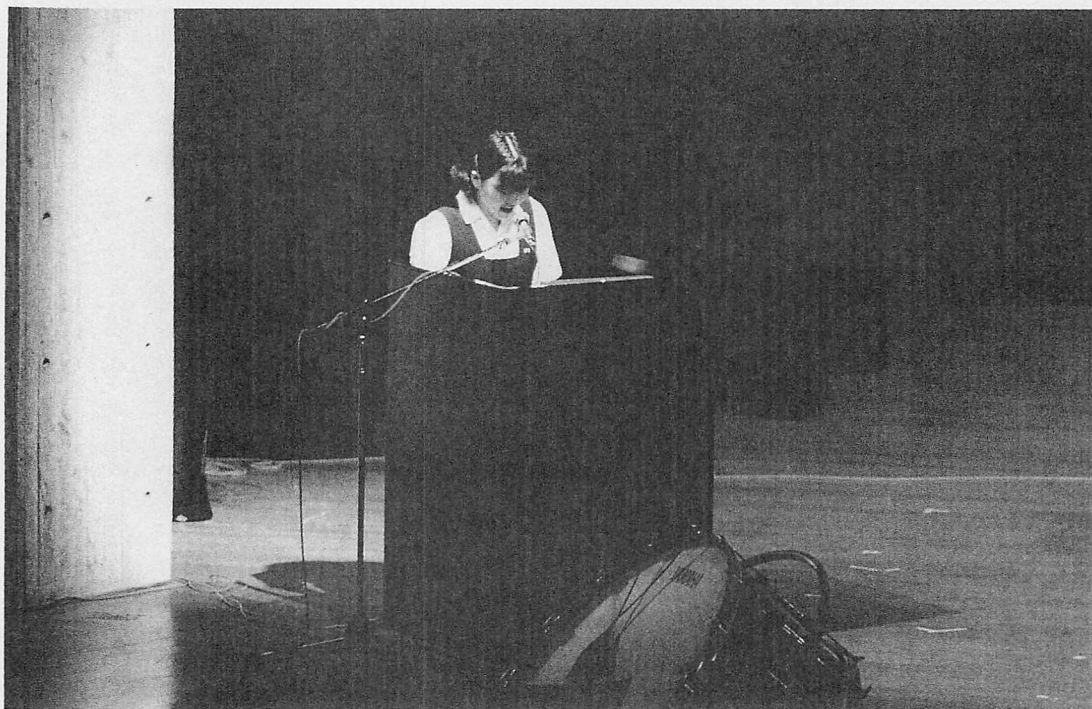
本年度は、萩高等学校主管のもと、6月14日萩市民館で開催されました。萩高放劇部が中心となり開会式の進行が行われました。昨年度の高文祭放送部大会において優秀な成績を収めた、実力あるメンバー勢ぞろいの放劇部は、式典においては厳かで堂々たる司会を務め、慶祝演奏においてはユーモアとウイットにあふれる進行で『名MC』と会場をうならせました。日頃から話すことの訓練はおこなわれているものの、大舞台においてみんなの心をひきつける話し方、話題、そしてアドリブを行うことの難しさと喜びを両方体験したと部員達は語っていました。

2. 全国総文祭 北海道大会

8月8・9日の2日間、北の大地・北海道札幌で開催された全国大会。山口県代表の生徒達は初めての北海道という思いが強く、胸はずませでの出発となりました。山口の暑さがウソのように、北の大地はまさに初秋の趣。あちこちにコスモスが揺れていたりしました。

山口県選手団はハイテンションのまま本番へと突入。萩校の井町君の『クリスとマイケルのお昼のにこにこ放送局』で、つかみはOK。山口弁講座で爆笑は頂点に。と、どの部門でも山口県らしさを十分に発揮していました。この中で、アナウンス部門において会場の心をガッチリつかんだ萩校の井町陽治君が特別賞、山口中央高校の石

▼県総文／総合開会式 司会 進行 アナウンス





▲全総文祭／北海道の高校生と交流

丸由香さんが奨励賞を受賞しました。オーディオピクチャー部門では、山口中央高校作『ザ・山口弁講座』が特別賞を受賞しました。高校放送コンテストとちがって、技と内容を競いあうというより、全国の多くの高校生とコミュニケーションのできる唯一の場ということで、会場は大いなる盛り上がりを見せていました。郷土色が色濃くでていることに、感動したり驚いたり。ホットなニュースとしては、沖縄の高校生の真摯な姿勢での番組づくりに心打たれた生徒も多かったようです

3. 県高校総合文化祭放送部大会

昨年に引き続き山口中央高校の主管で、11月10日に放送部大会が開かれました。山口放送からアナウンス部課長勝津正男さんと、テレビ制作部次長の城菊子さんが審査員としておいで下さいました。年々レベルアップしている生徒の審査にお二人共「非常に悩んだ」とおっしゃいました。その中から次の生徒及び作品が来年度の奈良大会に推薦されました。

アナウンス部門 山口高校 焼岡洋子
華陵高校 渡辺ゆかり
下松高校 岡崎 藍

朗読部門 岩国高校 村本 怜子
山口中央高校 高木理英子
高水高校 清水 麻未

ビデオメッセージ部門

野田学園高等学校

オーディオピクチャー部門

山口農業高校 農校の愉快的仲間達

4. 放送部会研修会

高文連放送部会理事会及び顧問交流会において、毎日の練習方法の具体的実践的指導を教員・生徒ともに受けたいという希望が強かったため、3月下旬に山口農業高校において、各校の生徒をモデルとしてだし、実践的指導の講習会をひらくことを企画しています。

3年目をむかえた放送部会は、生徒そして顧問の先生方の熱意とエネルギーに支えられ、これからもさらなる発展を目指したいと思っています。

将棋部門

理事長 弘中敏之
(下松高等学校教諭)

本年度は、山口県の高等学校将棋界にとり、県高等学校文化連盟13番目の専門部として正式加盟した記念すべき初年度です。まだ、歩きだしたばかりの小さな専門部ですが、次の3つの事業を実施しました。

1. 山口県高等学校総合文化祭開会式典の慶祝展示

下松高校主管のもと、6月14日(金)から16日(日)にかけて萩市民会館において展示されました。先行して行われた部門大会の様子を収めた写真3点の展示と結果報告を中心にまとめられました。作成に当たって、本部門の常任理事である熊毛南高校の古谷先生と、展示会場の設営に携わっていただいた萩工業高校の田畑先生、生徒諸君に大変感謝しています。

2. 第18回山口県高等学校総合文化祭将棋部門大会兼第32回全国高等学校将棋選手権大会県予選

下松高校主管のもと、5月26日(日)に中国新聞山口支社3階ホールにおいて開催されました。

参加選手は男子38名10校、レベルの高い熱戦が繰り広げられました。なお、個人戦で優勝した厚狭高校の金築克祐君と、団体戦で優勝した岡田祐季君・澄田長直君・友森康彰君は全国高等学校総合文化祭北海道大会に参加し優秀な成績を収めました。

3. 山口県高等学校文化連盟将棋専門部研修会

下松高校主管により、11月10日(日)に新南陽ふれあいセンターで行われました。理事の先生を中心とした大会運営の研修と、1・2年の男子29名9校の棋力向上を図る内容でした。指導対局については、現全国アマチュア王将の北村一アマ6段(防府高校出身)をはじめ、県下のトップアマ3名の御協力をいただきました。

現在、山口県将棋界は、まだ棋士の輩出を見ない県としては異例とも思えるほど高い水準にあります。それが高校将棋界にも波及しつつあり、厚狭高校1年の金築君は先述の全国大会で3位・某新聞社主催の全国高校竜王戦で準優勝を果

たしています。また、昨今の将棋ブームの中で、女子生徒の参加も期待されています。今は発足したばかりの組織ですが、どうか本専門部の事業活動へ多くの方が参加されますよう、よろしくお願いいたします。



◀ 県総文将棋部門大会
兼 将棋選手権大会県予選

主管校 多賀谷久代
(萩高等学校教諭)

▼第18回山口県高等学校総合文化祭 総合開会式(萩市民館)



第18回山口県高等学校総合文化祭の開会式は『ひろがれ未来へ 創造の輪』を大会テーマに平成8年6月14日(金)萩市民館大ホールで開催されました。

当日は前日まで連日の雨がうそのように晴れ上がり、小沢啓祐元教育長・野村萩市長をはじめ多数のご来賓をお迎えし、専門部を代表する約500名の出演者と会場一杯の聴衆の皆様とで盛大で感動的な開会式となりました。

式典は萩商業高等学校生徒代表の永嶺志津子さんのしっかりとした開会宣言にはじまり、長北地区8校選抜メンバー60名による合同吹奏楽団の高らかなファンファーレが鳴り響きました。指揮者は美祢工業高等学校の山本博資先生が務められました。続いて『高文連の歌』の演奏により、今年から将棋部が新しく加わって、各13専門部のプラカードを持った萩高女生徒が入場

し、森本紘史高文連会長のあいさつ、来賓の祝辞や歓迎の言葉をいただき、さらに県高文連結成以来長年にわたりマーチングバンド・バトントワリング専門部の部会長として組織の確立と高校生文化活動の発展に寄与された古谷信成(元宇部女子高等学校校長)さんに功績賞が会長より授与されました。続く各部門紹介は、それぞれ部門の活動状況を紹介のアナウンスとスライド投影とを並行して行いましたが、スライド投影は会場の関係上、昨年ほどの効果を上げることが出来ませんでした。

会場の観客は地元一般の入場者と、今年度は
主管校の1・2年と出演者のみにしました。

午後2時からの専門部による慶祝演奏は、山口県鴻城高校・三田尻女子高等学校によるマーチングバンド・パトントワリングの華麗で若さ溢れるきびきびした演奏、十分に合同練習が出

来なかったにもかかわらず見事なハーモニーの長北地区合同吹奏楽団の好演、聖光高校の張りのある澄んだ声で会場の隅々まで響きわたる朗々の吟に合わせて美しい動きの中に力強さを感じた吟舞『富士』、最後は高校生450名による大合唱は何と言っても圧巻でした。水を打ったように静かな会場に細く形容し難い弦の響き、感情の高まりのような打楽器の荒々しい響き、そして会場を音の芸術でいっぱにする大合唱、見るもの聞くものに感動を与えるすばらしい演奏でした。また山口県高校生の文化レベルの高さをあらためて認識させました。

これらステージの司会進行は萩高放劇部が毎年全国大会出場の実力を十分発揮して進行役を務めてくれました。

一方萩市民館ロビーでは美術工芸、書道、写真、囲碁、将棋等県内各校より秀作が集められ慶祝展示がおこなわれ、多数の地元市民や高校生が熱心に見入り、一般観客は高校生の秀作に大きな関心をよせました。

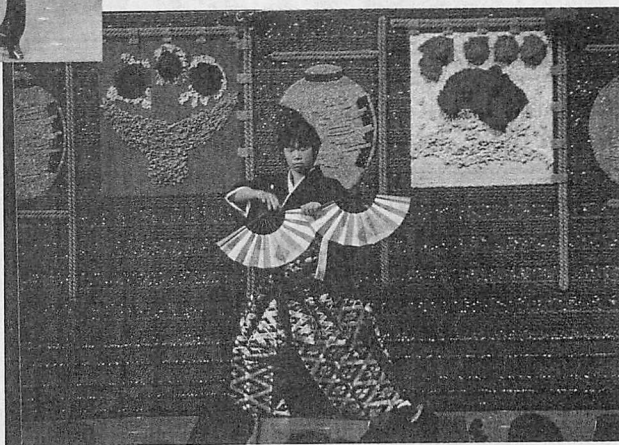
さて、前年主管校(下関西高校)から引き継ぎ

を受けた本校は会場(萩市民館)、学校、地域いずれも下関地区に比べると規模も小さい為、今迄のように出来るかどうか大変不安でした。しかし、萩地区で出来るかぎりの努力をと言うことで、長北地区の先生方には随分と負担をおかけしました。何よりも天候に恵まれ、会場での雨対策の必要がなく、役員の先生方生徒達等の献身的な協力と、主管校の未経験、未熟さは県教委、高文連事務局、専門部理事長のご指導ご助言、矢田部、有富両先生をはじめ長北地区芸術関係の先生方の絶大なご支援を賜わりお陰で無事終えることが出来ましたこと本当に感謝しております。また萩市の助成、萩市民館のご協力、駐車場の便宜を図って下さった各機関、これらのご支援なくしては絶対開催不可能でした。改めて紙面をお借りしお礼を申し上げます。また、ご参加下さったすべての皆様本当にありがとうございます。

来年はシンフォニア岩国でお会いいたしましょう。



◀ 県総文／総合開会式
主管校生徒代表 萩高等学校



◇慶祝演奏

<マーチング・バドントワリング>

『トップガン』

『バック・トゥー・ザ・フューチャー』

〔出演〕三田尻女子高等学校

山口県鴻城高等学校

<日本音楽>

箏曲『富士』〔出演〕萩高等学校

<吹奏楽>

『そよ風のマーチ』『威風堂々』

〔指揮〕山本博資

〔演奏〕長北地区高等学校合同吹奏楽団

<吟詠剣詩舞>

吟舞『宝船』〔出演〕聖光高等学校

<合唱、器楽・管弦楽>

『大地讃頌』

タンホイザーより「大行進曲」

〔指揮〕矢田部一俊

〔演奏〕山口県高等学校合唱団

山口県高等学校管弦楽団

〔全員合唱〕『みんなのふるさと』

◇慶祝展示

<美術・工芸>

〔出品校〕萩商業 萩工業 萩光塩 大津

日置農業 萩 各高校

<書道>

〔出品校〕下関西 防府 中村女子 高水

萩商業 萩光塩 大津 日置農業

萩 各高校

<写真>

〔出品校〕徳山 小野田工業 美祢工業

各高校

<囲碁>

〔出品校〕小野田高校

<将棋>

〔出品校〕下松高校

◇進行アナウンス

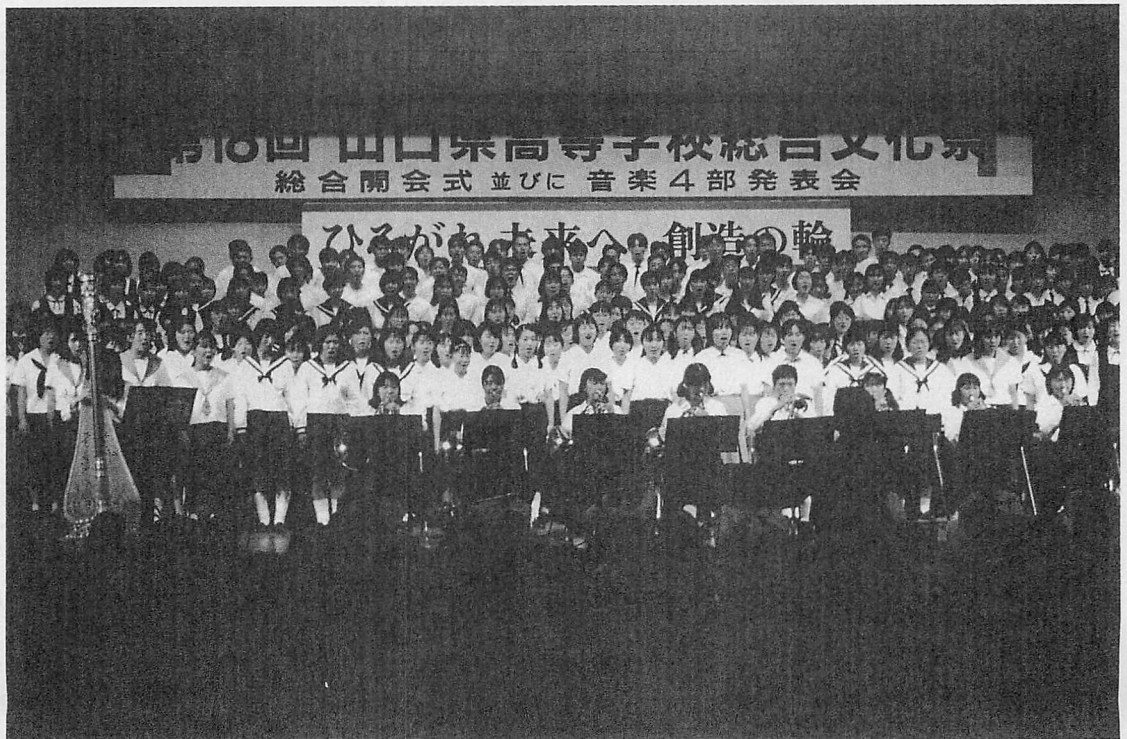
<放送>式典 進行

萩高等学校放送劇部

慶祝演奏<幕あい出演及び進行>

萩高等学校放送劇部

▼県総文／総合開会式「大地讃頌」山口県高等学校合同合唱団・山口県高等学校管弦楽団



※山口県高等学校管弦楽団

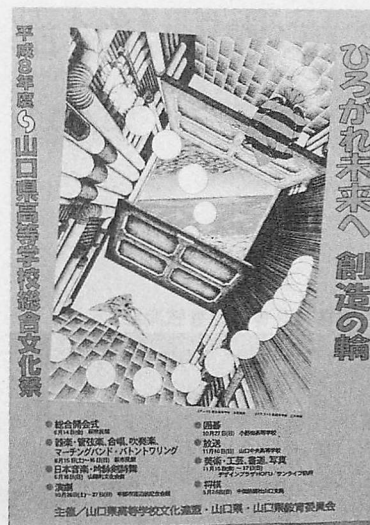
下関南 柳井 山口中央 防府
各高校

※山口県高等学校合唱団

安下庄 防府 サビエル 豊浦
長府 山口中央 奈古 宇部 野田
宇部中央 香川 萩 各高校

※長北地区合同吹奏楽団

美祢 美祢工業 日置農業 大津
奈古 萩光塩 萩 各高校



▲乙丸奈緒(萩高校)さんのイラストを基にしたポスター



▼表彰式

▲合同演奏会(長北地区吹奏楽団)



▼慶祝展示

▲受付風景



▼幕間のインタビュー 萩高校放劇部



音楽関係4部門発表会

器楽・管弦楽部門

会場：萩市民会館

理事長

松永忠雄

(下関南高等学校教諭)

▼柳井高等学校管弦楽部



平成8年度第18回山口県高等学校総合文化祭の音楽関係4部門発表会は6月15日(土)、16日(日)の両日、萩市民館において例年の如く高文連各部門のトップを切って開催されました。また、その前日の14日(金)には、総合開会式が満員の聴衆を集め盛大に行われました。

器楽・管弦楽部門でも昨年と同じく、合唱部門と合同で慶祝演奏に参加しました。今年度は萩市民館のステージがやや狭く、いつものような大編成のオーケストラが編成出来ませんでした(それでも82名)。曲目は昨年の“第九”からまた元に戻り例年の“大地讃頌”“タンホイザー大行進曲”の二曲を演奏しました。

特に『タンホイザー』は矢田部先生(美祿高)の躍動感溢れる若々しい指揮のもとで、ステージ左右に位置したトランペット6人づつ(柳井高・防府高)の輝かしいファンファーレ、ワーグナー独特の重厚な響き、コーラスとオーケストラの一体感となった終盤など、開幕式典にふさわしい音楽とその演奏で聴衆に深い感銘を与えました。

た。

さて、2日間にわたって開催された音楽関係4部門発表会の器楽・管弦楽部門には、今年度もオーケストラ5校、ギター、マンドリン合奏3校の出演があり、多数の参加のあった吹奏楽部門(50数校)に混じって、一服の清涼剤ともいえる演奏を披露しました。各校ともに、弦楽器独特の艶やかで、柔らかい音色を備えた立派な演奏で、大会を大いに盛り上げました。

管弦楽は技術や編成、あるいはその普及など見るに、一部を除いて「まだまだ」という現状があります。ギター、マンドリンなども一般的には愛好されて普及されているように思われますが、本格的な合奏となると、これまた決して十分とは言えません。

全国の高校生の中で「ベートーベンの運命は聴いたことがある」と答える生徒は多いでしょう。が「オーケストラの中に入って演奏した」という者は稀とおもいます。生徒は、実際の演奏に参加することで、より深い、真の感動を得るので

はないでしょうか。吹奏楽全盛の今日、音楽的にさらに一段と優れた合奏の形態である管弦楽活動を行うことは、より高く、より芸術的な感性を伸ばし、さらには集団の中で自己を生かす能力を養うことになり、心情豊かな社会の一員となるのではないのでしょうか。

ともあれ現在、山口県内で部活動としてオー

ケストラを組織している高校は5校。全国的にみても少ないと思われます。「高校レベルでは技術的にも経済的にも無理だ」という声もありますが、ハイレベルな吹奏楽活動が実践されている今日、出来ないことはありません。山口県にも立派なスクールオーケストラが誕生することを望みます。

第18回県高総文祭の記録

合唱部門

会場：萩市民会館

理事長

石島 栄子

(野田学園高等学校教諭)

▼萩高等学校



平成8年度山口県高等学校総合文化祭の音楽部門の発表会は6月14日(土)、15日(日)の2日間、萩市民館にて開催された。前日の開幕式典の大合唱の興奮も醒めぬままの会場で高校生の熱心な演奏が続いた。

今年は萩ということで距離的に遠くなる学校が多くまた日曜日に行事と重なる為にプログラム編成では地元萩地区に大変ご迷惑をかけました。萩高を中心に萩地区の高校生、先生方の熱心な運営のおかげで2日間を無事終えることができました。合唱部門は2日にわたり第1日目は香川、宇部、山口中央、サビエル、中村、午後に入り長府、高水、萩光塩、宇部中央、防府、野田の11

校が、第2日目には岩国、奈古、萩の3校、計14校が出場しました。各校の特徴を生かし気軽に出場できるこの大会で、合唱部門の広がりを望みたい。合唱は基礎の声作りに大変時間が掛かるので根気がいり、大変だが奥が深く楽しいものである。

願わくはもっと合唱部門の参加が増えることである。また歌うだけでなく、表現の幅広さ、演技力を含めて合唱表現の研究を試み、もっともっと合唱が楽しく深いものであることを追求してゆきたい。

歌うことは訴えること!

歌うことは演じること!

吹奏楽部門

会場：萩市民会館

主管校 **渡辺雅文**
(萩高等学校教諭)

今年度の山口県高等学校総合文化祭音楽4部門の発表会は、6月15日(土)・16日(日)の両日、萩市民館において開催され、吹奏楽部門からは、54校、約2,000名という、多数の参加をいただきました。萩という交通の便のあまりよくない地への移動は、各団体とも大変だったと思いますが、楽しい演出で、観客を魅了する団体や、小人数でも一生懸命演奏してくれた団体など、各団体とも素晴らしい演奏を披露してくれたと思います。

会場でのマナーもよかったように思いますが、ゴミの持ち帰りをお願いしたにもかかわらず、完全には守られていなかった点は、残念に思いました。また、各団体の事情も有ると思いますが、もっとしっかり他の団体の演奏を聴いてもらえたらと思いました。

開幕式典へは、長北地区9校(萩、萩商業、奈古、大津、日置農業、美祢、美祢工業、萩光塩)で、合同吹奏楽団を編成し、美祢工業高校の山本博資先生の指揮で、ファンファーレ、高文連の歌を演奏しました。その後の慶祝演奏では、「そよ風のマーチ」と「威風堂々」の2曲を演奏しました。合同練習をする機会はあまりありませんでしたが、りっぱな演奏をしてくれたと思います。

最後は山口高校の演奏で「ふるさと」を全員合唱して、発表会は閉幕しました。来年度はシンフォニア岩国というすばらしい会場での演奏会です。今年以上の演奏を各団体ともしてくれるのではと期待します。今演奏会に参加してくれた皆さんはもちろん、2日間、裏方として演奏会を支えてくれた皆さんに心より感謝したいと思います。ありがとうございました。



▲広瀬高等学校

マーチングバンド・バトントワリング部門

会場：萩市民会館

理事長

花村 慈照

(宇部女子高等学校教諭)

▼宇部女子高等学校



第18回山口県高等学校総合文化祭音楽4部門の発表会は、総合開会式の翌日・6月15日(土)、16日(日)の2日間、萩市民館で開催されました。マーチングバンド・バトントワリング部門は6校、169名の参加をいただきました。14日(金)の慶祝演奏・演技では山口県鴻城高等学校の演奏のもと、三田尻女子高等学校のバトンの演技で『トップガン』『バック・トゥー・ザ・フューチャー』の2曲を披露しました。2日目の6月15日(土)の音楽4部門の発表会では、マーチングの部には宇部女子高等学校のコンサート・マーチ『テイク・オフ』、佐波高等学校の『栄光への脱出』、山口県鴻城高等学校の『トップガン・アンセム』『バック・トゥー・ザ・フューチャー』でステージドリルを行い、またバトントワリング部には、早稲高等学校の『フリント・ストーン』、宇部女子高等学校の『ファラオ』、三田尻女子高等学校の『グ

ローイング・アップ』の演技を行いました。狭いステージでの演奏・演技には各校とも色々と工夫をこらした演技でありました。

『県総文祭に参加して』

宇部女子高等学校バトン部

私たちの第18回音楽4部門の発表会には、部員25名が参加しました。最初の曲の『アラジン』は初めて自分達で創作した作品であり、高度な技を多く取り入れました。本番中は25名の心が一つになりミスも少なく、立派な演技をすることができ、自信をつけることができました。二曲目は『push me』で、今流行のポップなダンス曲に挑戦し、会場の皆さんからさかんな拍手をいただきました。私たち部員一同心から皆さんに感謝いたします。ありがとうございました。



◀ 三田尻女子高等学校

▼ 三田尻女子高等学校



▼ 宇部女子高等学校



日本音楽部門・吟詠剣詩舞部門

会場：山陽町文化会館

主管校 **戒屋千賀子**
(厚狭高等学校教諭)

『ひろがれ未来へ 創造の輪』というテーマのもと、第18回山口県高等学校総合文化祭・日本音楽・吟詠剣詩舞部門発表大会が、厚狭郡山陽町にある山陽町文化会館を会場にして開催されました。

本校は主管校としてお世話させていただきましたが、大会の運営準備に苦労しました。今まで文化祭への参加は何度かしてきましたが、引き受けるとなると、その運営準備の大変さがよくわかりました。特に理事長の中野先生と藤井先生には何度か厚狭にお運びいただき、なんとか開催にこぎつけることができました。厚狭高の先生方をはじめ多くの方々に甚大なる御協力と御指導をいただいたことに対し、この場をかりて厚く御礼申し上げます。

さて、県大会は梅雨の晴れ間のもと、早鞆高校の勇壮な平家太鼓を皮切りに、県下17校総勢約160名の出場をいただき幕を開けることとなりました。各校とも日頃の練習の成果を発揮され、太鼓・琴・吟・詩舞と日本音楽の奥ゆかしさを存分に堪能することができました。閉会式では、松村房子先生と児玉明先生に適切な御講評をいただき、参加者の励みになったこととおもいます。

最後に、今大会ではいろいろ不備な点がございまして御迷惑おかけしましたが、関係の皆様方の御協力により、無事に終了することができました。心より感謝し、御礼申し上げます。今後の日本音楽の更なる御発展を心から祈念しております。

▼防府高等学校



▲中村女子高等学校

展示関係部門

会場：デザインプラザHOFU・サンライフ防府

主管校 **有 富 由 美**
(防府高等学校教諭)

平成8年度第18回山口県高等学校総合文化祭
展示部門は11月15日(金)～17日(日)3日間、防府市のサンライフ防府とデザインプラザHOFUの2会場で開催されました。防府地区6校の協力のもと防府高校が主管となり運営委員会が設置され、防府地区協力校15名主管校14名の運営委員により、準備がすすめられました。

文化祭は15日のオープニングセレモニーを皮切りに、美術・工芸、写真各部門はデザインプラザHOFU、書道部門はサンライフ防府の各展示会場で展示が開始されました。

今年度は総出品数351点、参加校3部門合計84校という多くの参加を得、高校生の若いエネルギーに満ちた力作が、会場に所狭しと展示され、賑やかな作品展となりました。最終日の17日には講評会が行われ、各会場で多数の高校生が緊張しながら作品の講評に耳を傾ける姿が見られ、大会は熱気に満ちたまま盛会のうちに幕を閉じました。

<日程>

11月14日(木)9:30～15:30 作品搬入、展示
15:30～17:00 審査会

11月15日(金)10:00～10:30

オープニングセレモニー

15日(金)・16日(土)10:00～17:00 展示

11月17日(日)10:00～13:30 展示

13:30～15:30 講評会

16:00～ 作品搬出、撤去

<反省・感想>

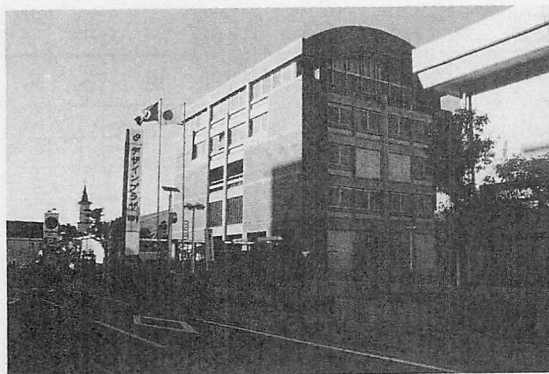
まず今年問題となったのは、二会場に分かれ

たことです。全体を掌握するのが困難で運営もむずかしいと危惧されましたが、しかし、狭い会場に少ない作品を展示するよりは、より広い会場にできるだけ多くの作品を、という気もちで二会場に決定しました。結果としては、全体の掌握に困難な点は有りましたが、出品数の増加という点では効果があったとおもいます。ご存知のように全総文へつながる大切な大会です。県内での業績を確かなものにするためにも、より多くの高校生の参加を促すことが大切です。

次に来場者数の問題です。前述のように前年度をかなり上回った数字が出ていますが、それでもまだ参観者は少なく思われます。せっかくこれだけの手間をかけて高校生達の力作を一堂に会しているわけですから、より多くの参観への呼びかけや工夫が必要だと思えます。

最後に講評についてです。今年は大変多くの高校生の参加を得て盛り上がりを見せました。さらに多くの出品者の参加を期待したいところです。各校の大会参加体制が、生徒会とのつながりを通してきちんと確立され、顧問の先生が必ず出品者を引率して来られるように希望します。

以上思いつくまま感想を述べました。この1年間本文化祭を運営していくにあたり多くの先生方、生徒の皆さんのご協力を賜り、おかげで無事大会を終え所期の目的を果たすことができました。お忙しい中、骨身を惜しまずご協力いただいた方々に深く感謝の意を表して報告いたします。



▲美術・工芸部門会場



▲書道部門会場

<準備日程>

実施日	内 容	実施日	内 容
4 / 19	会場予約	10 / 18	出品一覧表作成
4 / 19	共催依頼(防府市教育委員会)	10 / 19	目録印刷
5 / 15	防府地区運営委員調査	10 / 20	開会式審査会出欠調査
5 / 28	校内委員会発足	10 / 25	パネル配置計画
6 / 19	第1回運営委員会 ＜出席者＞ ・主管校…校長, 教頭, 柴崎 重岡, 有富(司会) ・指導課…三原指導主事 ・高文連…中邑事務局長 ・各理事長…庄島, 荒瀬, 元永 ・前年度主管校…岩陽高(島田) ・次年度主管校…下松高(石丸) ・防府地区運営委員会 9名	11 / 1	・講評会生徒教員派遣依頼 ・ポスター配布(市内中・高校)
		11 / 5	第2回運営委員会 ＜出席者＞ ・主管校…校長, 教頭 ・運営委員 12名 ・協力校運営委員会 9名
		11 / 7	係生徒 役員 派遣依頼 (搬入 大会期間中, 搬出)
		11 / 8	賞状受渡票印刷
		11 / 9	目録・封筒詰め 旅費受領書作成
6 / 21	要項送付	11 / 10	展示関係必要物準備 報道(地元誌等)宣伝依頼
6 / 25	開催案内		
10 / 4	報道機関宣伝依頼	11 / 11	弁当・ジュースの注文
10 / 9	賞状印刷		
10 / 15	・出品申込締切 ・開会式参列者案内 ・報道機関宣伝依頼 ・審査員依頼 ・主管校運営委員会	11 / 18	賞状発送
		11 / 21	礼状発送(県・市・会場等)
		12 / 16	決算報告

<運営委員>

・主管校運営委員
委員長…松本校長
副委員長…佐古教頭
総務…有富
各部責任者…柴崎, 有富, 重岡
会計…藤井
オープニングレシーブ…黒田, 四熊, 中川正
搬入・搬出…井口, 長谷川, 桑原
駐車場…中川勝, 長谷川, 桑原
弁当・受付・接待…富岡, 藤井
・協力校運営委員
佐波高…上田
防府西高…中村, 林, 光広, 村田
防府商高…本村, 安部
三田尻女子高…岩井, 栗屋, 工藤, 森重
多々良高…藤川, 福山
防府養護…戸野, 石丸

<係生徒>

佐波高2名 防府西高34名 防府商高18名
三田尻女子高26名 多々良高16名 防府養護2名
防府高48名 計146名

<来場者数>

11月15日(金) 200名
11月16日(土) 180名
11月17日(日) 480名 計860名

《出品校一覧表》

	学 校 名	美術・工芸	書 道	写 真		学 校 名	美術・工芸	書 道	写 真
01	安 下 庄				51	長 府	5		
02	久 賀				52	下 関 西		5	
03	岩 手	3			53	下 関 南	2	3	
04	岩 陽	4			54	下 関 第 一	1	4	
05	岩 国 商 業		5		55	中 央 工 業			
06	岩 国 工 業	1		3	56	下 関 工 業			
07	坂 上				57	響			
08	広 瀬				58	豊 北			
09	高 森	5	4		59	日 置			
10	柳 井	5	5		60	大 津	5	3	
11	柳 井 商 業				61	水 産			
12	柳 井 工 業				62	萩	5		
13	熊 毛 南				63	萩 商 業	3	2	
14	田布施農業				64	萩 工 業	2		
15	田布施工業	3		1	65	徳 佐			
16	光				66	奈 古			
17	光 丘				67	盲			
18	熊 毛 北	5	5	8	68	聾			
19	下 松				69	岩 国 養 護			
20	華 陵				70	田布施養護			
21	下松工業				71	徳 山 養 護			
22	徳 山		5	7	72	防 府 養 護	4		
23	徳 山 北				73	宇 部 養 護			
24	徳 山 商 業				74	下 関 養 護	4		
25	徳 山 工 業				75	萩 養 護			
26	鹿 野				76	下 関 商 業	5		
27	新 南 陽	2			77	高 水	2	5	
28	南陽工業			10	78	柳 井 学 園		5	
29	佐 波	5			79	聖 光			
30	防 府	5	5		80	山口県桜ヶ丘			
31	防 府 西	5	2	9	81	三田尻女子	5	2	1
32	防 府 商 業	5	1		82	多々良学園	3	1	7
33	山 口	5	4	10	83	中 村 女 子	5	4	
34	山 口 中 央	5	2		84	野 田 学 園	4	5	
35	西 京	5			85	山 口 鴻 城			
36	山 口 農 業				86	宇 部 鴻 城			
37	宇 部	5		2	87	宇 部 女 子	2		
38	宇 部 中 央	5			88	美 祢 中 央			
39	宇 部 西	5	4	6	89	香 川		5	
40	宇 部 商 業	5			90	サ ビ エ ル	5		
41	宇 部 工 業		5		91	早 柄		2	
42	小 野 田			3	92	下関女短大付属		2	
43	小野田工業		3	10	93	長 門			
44	厚 狭	2	2		94	萩光塩学園	5	4	
45	美 祢		5				64	52	8
46	大 嶺						90+64	58+52	79+8
47	美 祢 工 業		1	10		出品作品数	154	110	87
48	田 部					総 計		351	
49	西 市					出 品 校 数	39	31	14
50	豊 浦	5							

優秀作品一覧

第18回県高総文祭

美術・工芸部門

〈全総文祭候補作品〉

《優秀賞 10点》

	学 校 名	学年	氏 名	題 名
1	野田学園高等学校	2	土山 直也	自画像
2	西京高等学校	2	山川 由利子	デザイン
3	宇部商業高等学校	2	深川 智世	有刺鉄線
4	宇部高等学校	2	中明 聖晴	発動機
5	宇部高等学校	2	平田 哲夫	牛骨のある静物

	学 校 名	学年	氏 名	題 名
1	宇部女子高等学校	1	佐藤 絵美	紋所図鑑
2	萩光塩学院高等学校	1	田中 奈津枝	都市幻想
3	防府高等学校	2	原田 香	人物
4	岩国工業高等学校	2	藤本 勇也	静物
5	宇部西高等学校	1	藤村 良子	真紀
6	西京高等学校	3	平田 隆之	静物画
7	野田学園高等学校	3	三浦 智英子	神社
8	山口高等学校	2	中野 智仁	用水路
9	下関第一高等学校	3	濱崎 孝洋	光の中の置物
10	野田学園高等学校	3	友田 威	静物

書道部門

〈全総文祭候補作品〉

《優秀賞 7点》

	学 校 名	学年	氏 名	題 名
1	下関西高等学校	2	原田 あゆみ	臨 関戸本古今集
2	防府高等学校	2	桑原 由香梨	臨 礼器碑
3	下関第一高等学校	1	岡崎 寛隆	臨 孔子廟堂碑
4	萩光塩学院高等学校	2	山下 美恵	臨 米芾蜀素帖

	学 校 名	学年	氏 名	題 名
1	柳井高等学校	2	河岡 さと子	臨 遠宦帖
2	徳山高等学校	2	原 奈帆子	清虚
3	山口高等学校	2	梓山 るり子	金子みすずの詩より
4	熊毛北高等学校	3	嶋津 敦子	臨 争座位稿
5	大津高等学校	2	田辺 英恵	臨 饗宝子碑
6	高水高等学校	2	森本 真由美	臨 英子侯刻石
7	野田学園高等学校	2	井上 尚美	中也の詩「帰郷」

写真部門

〈全総文祭候補作品〉

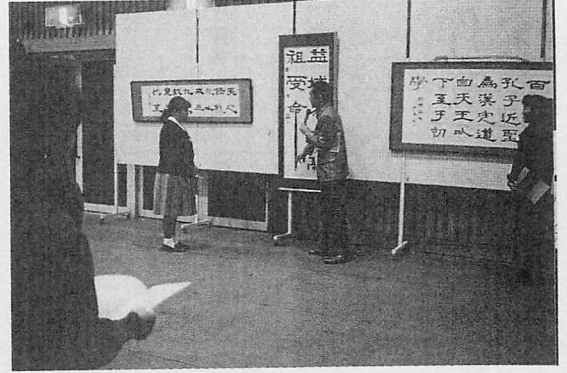
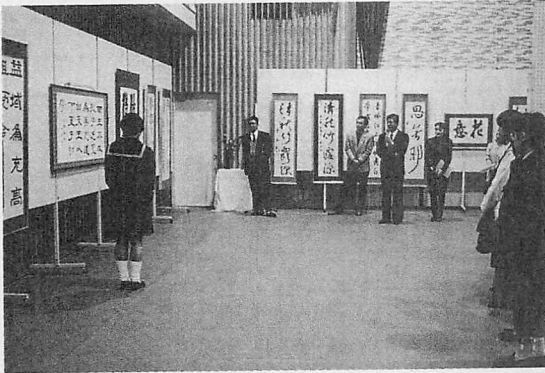
《優秀賞 4点》

	学 校 名	学年	氏 名	題 名
1	熊毛北高等学校	2	浦 久美子	階段
2	小野田工業高等学校	1	佐藤 陽平	何してござる
3	美祢工業高等学校	2	村上 純	時間(とき)の狭間(はざま)
4	美祢工業高等学校	1	岡崎 貴博	スプラッシュ！
5	南陽工業高等学	1	佐伯 健太郎	お父さんといっしょ

	学 校 名	学年	氏 名	題 名
1	防府西高等学校	3	小方 よしえ	必死に・・・
2	三田尻女子高等学校	3	柳 宏枝	接戦
3	美祢高等学校	3	岡崎 裕幸	晩夏
4	小野田工業高等学校	3	村岡 寛之	熱写

書道部門

会場：サンライフ防府



▲会場風景▲

美術・工芸部門

会場：デザインプラザ HOFU



全総文／出品候補作品



写真部門

会場:デザインプラザHOFU

理事長

元永百合心

(小野田工業高等学校教諭)



今年度は防府高等学校の主管のもと、サンライフ防府で開催されました。15校87点の出品があり、出品数は増加しました。

審査委員として、日本報道連盟西部本部委員の宮村義明氏、徳山高校の藤川明德先生にご依頼し、また、私も加わり、下記の5点が第21回全国高校総文祭への候補作品となりました。

審査では、高校生の感性を大切に被写体の面白さに重点を置きました。毎年、感じられることは暗室技術の向上とスポッティング技術の向上が望まれるところです。

(参加校)

岩国工業	田布施工業	熊毛北
徳山	南陽工業	防府西
山口	宇部	宇部西
小野田	小野田工業	美祢工業
下関西	三田尻女子	多々良学園

(以上15校、87点)



(第21回全国大会出品候補作品)

熊毛北	浦 久美子	階段
南陽工業	佐伯健太郎	お父さんといっしょ
小野田工業	佐藤 陽平	何してござる?
美祢工業	村上 純	時間の狭間
〃	岡崎 貴博	スプラッシュ!

(優秀賞)

防府西	小方よしえ	必死に
小野田工業	村岡 寛之	熱写
美祢工業	岡崎 浩幸	晩夏
三田尻女子	柳 宏枝	接戦

最後に、作品の展示並びに撤去に際し、多大なご尽力をいただきました防府地区の生徒諸君及び先生方に心よりお礼申し上げます。

囲碁部門

会場：小野田高等学校

理事長

竹内 洋春

(小野田高等学校教諭)

平成8年度の囲碁部門第8回大会兼全国高校総文祭囲碁部門第10回大会県予選は、平成8年10月27日(日)高文連会長森本紘史校長先生、指導課指導主事三原裕人先生、高文連事務局長中邑立夫先生を迎えて、小野田高等学校会議室で開催されました。参加校は13校で男子47名、女子9名計56名の参加があり、終日熱戦が繰り広げられました。競技方法は4面打ち変則リーグ戦(ハンディ戦)で、団体戦は3名の勝ち数で決定されました。結果は、次の通りになりました。

(団体戦)

男子 優勝 防府高等学校
準優勝 美祢工業高等学校
第3位 徳山工業高等学校
女子 優勝 防府高等学校
準優勝 宇部女子高等学校
第3位 萩高等学校

となりました。

また、平成9年度の全国高校総文祭の団体戦と個人戦の代表決定戦は、第3戦までの成績と

棋力を考慮に入れて選抜委員が10名を決定しました。第4戦は対局時計を使い互選で代表権をかけて行われました。

その結果は、次の通りになりました。

(団体代表決定戦)

男子 優勝 水津 崇文(徳山高等学校)
優勝 重田 浩司(防府高等学校)
女子 優勝 秋本瑞矢江(下関南高等学校)

(個人代表決定戦)

男子 優勝 三分一 修(下関西高等学校)
女子 優勝 今井由美子(宇部女子高等学校)

となり、平成9年8月8日(金)、9日(土)に奈良県磯城郡川西町で行われる全国大会に出場する予定です。平成8年度北海道で行われた全国大会に出場した秋本瑞矢江、今井由美子さんを初めとして活躍が大いに期待できると思います。

県の大会はハンディ戦ですから棋力に応じて楽しむことができます。参加校は西高東低で徳山以西の学校からですが、もっと多くの学校から多数の参加を望んでいます。



演劇部門

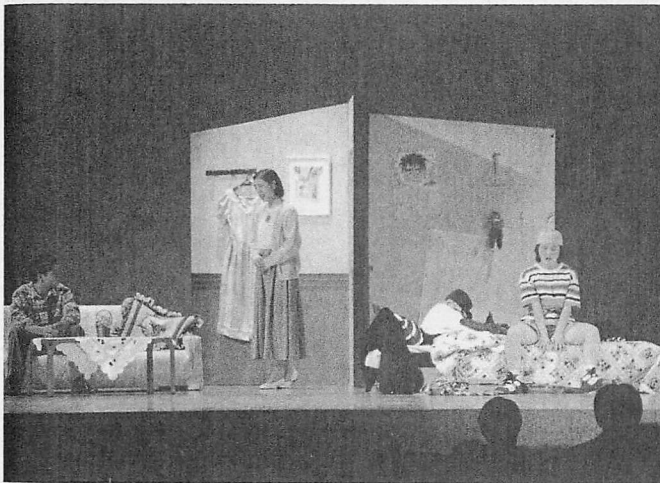
会場：宇部市渡辺翁記念会館

理事長

石井末雄

(下関商業高等学校教諭)

▼岩陽高等学校



▼山口県鴻城高等学校



10月26日(土)・27日(日)宇部市渡辺翁記念会館で、4地区から次の8校が参加して開催されました。岩陽高校・新南陽高校(周防地区)、県鴻城高校・西京高校(山防地区)、サビエル高校・宇部高校(宇部地区)、梅光女学院高校・下関第一高校(下関地区)。

昨年来、運営の主力は現地実行委員会に引き受けてもらっています。予算面では、高文連からの補助が若干ふえてたいへん助かりました。現地実行委員会と高文連に厚い感謝の意を表したいと思います。

今年の特徴は、初参加校や久しぶりの参加校があったせいか、粒揃いというわけにはいかず地区大会での伸び伸びした力演が影をひそめた学校、地区大会にさらに磨きをかけた舞台づくりをした学校とがそれぞれ際立つ大会となりました。「演劇は生きもの」、顧問の指導のむつかしさを痛感させられました。

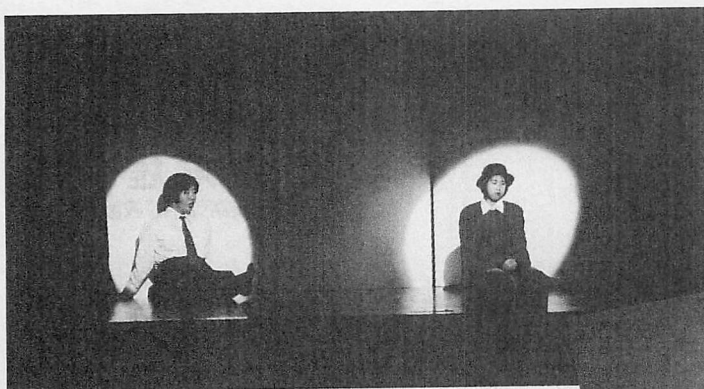
総評として篠崎光正先生(演出家・桐朋学園大学助教授)は、①演劇は観客がいてはじめて成立

するもの。観客のさまざまな反応が演技者を微妙に刺激し、演技者の真摯な演技が観客に感動を与えてくれます。どちらか一方でも欠落すれば、もはや演劇とはいえないものになってしまいます。多くの人に観てもらおう努力をしましょう。

②心の動きの表現である「心理的『間』」の稽古を積んでください。「心理的『間』」をそのままにしておいたら、おもしろくなるし、演劇に深み・奥行きが出てきません。演劇では「物理的『間』」を「心理的『間』」に置き換える工夫をすることが大事なのです。

③大きな声を出しているが、声がわれて聞きとりにくい場面がありました。リハーサルの時などを利用して、会場の条件に合わせた発声ができるような練習をしてください、といつもながら示唆に富んだ有意義な話をしていただきました。

結果、岩陽高等学校と県鴻城高等学校が中国大会出場権を得ました。



▲「エレベーター」サビエル高等学校



▲「想稿・銀河鉄道の夜」梅光女学院高等学校



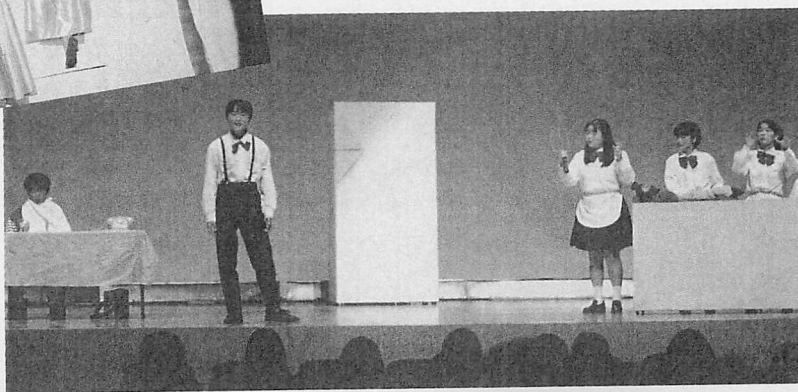
▲「ここだけの話」宇部高等学校



▲「Piece of Dream」新南陽高等学校



▼「ゆめ、夢のあと」下関第一高等学校



▲「僕の時間の深呼吸」西京高等学校

放送部門

会場：山口中央高等学校

理事長

青木 幸子

(山口農業高等学校教諭)

11月10日、山口中央高等学校主管のもとで、第3回放送部門大会が行われました。昨年度にくらべ参加人数・参加作品も増え、緊張感の中にも温かさの感じられる大会となりました。

来年度の全国大会の開催県奈良の希望により朗読作品は奈良を舞台としたものをということで、朗読部門に参加した生徒はかなり苦勞した様子でした。亀井勝一郎著『大和古寺風物誌』や井上靖『額田女王』を選んだ生徒が多かったのですが、書き言葉を自分のものにして表現することの大変さを強く感じたようでした。

アナウンス部門においては、題材に新しいものが多く選ばれており、材料の料理の仕方も年々上手くなっているように思われました。身近なものを、どんな切り口でとらえていくか、どう表現すれば多くの人の心をとらえることができるか？そのあたりに力を注いだ原稿が多かったようにおもわれます。

▼アナウンス風景

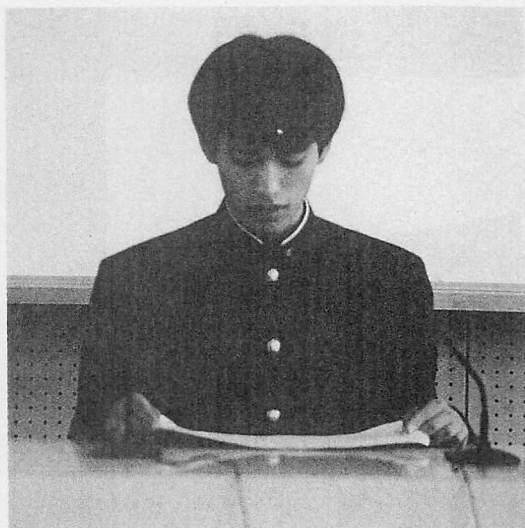


▲審査員講評

本年度の審査にあたられたKRY山口放送局アナウンス部課長の勝津正男アナウンサーは「レベルが高くなっていてびっくりした。一昨年は、とびぬけて上手いという人とその他の人との間にギャップが大きかったが、今回はほとんど差がないくらい上達している。」とほめて下さいましたが、基礎的な事項としての腹式呼吸のできていない人が多いことに対する指摘や、朗読に対する誤った思い込み表現に対する指導もありました。腹式呼吸の訓練法については、生徒はもちろん、来賓として参加して下さった先生をはじめ各校の顧問の先生もいっしょに参加し、その難しさを実感したというコマもありました。日々の練習に対する具体的アドバイスに

対しては、熱心にメモをとる姿も多くみられました。番組制作に対しては、KRY山口放送テレビ制作部次長の城菊子さんから講評がありました。野田学園高校のビデオ作品にたいしては「映像の美しさ、企画・構成におけるレベルの高さをほめられると同時に、若者らしい発想の型破りなもの、今でなければ作れないようなもの、そんなものが、これから続々作られることを期待している。」とのことでした。オーディオピクチャー部門においては、山口農業高校作『農校の愉快的仲間達』に強い感動を覚え、涙ぐんでしまったと語られました。豚の世話を通して、命の尊さとむきあっている貴重な体験が、素朴な生徒の語り口の中からストレートに伝わってくる、他では決して作れないものを作りあげた事のすばらしさも語って下さいました。

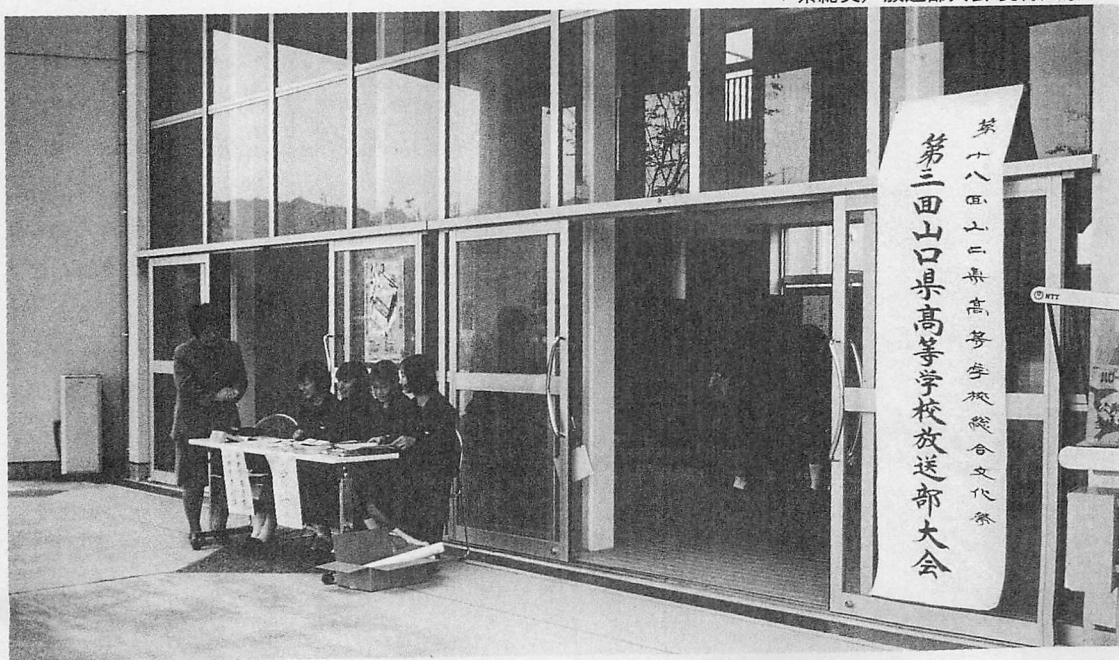
山口県下の放送部員が一堂に会するという機会は年に2度しかありません。その中でもコンテストとは違う意味で生徒同士が本音で語りあえる場が放送部大会のように思えます。平日頃の悩みく部員不足の危機、財政の乏しさ、指導者のいないつらさ、練習の仕方がわからず途方にくれていること等>を交流会の席では語りあい、ぜひ、みなでいっしょに大練習会なるものを



もって、いっしょにステップアップしていこうという意見で大団円をむかえたのでした。

放送部大会で交された本音の声をしっかり生かし、講習会、研修会、または複数校集まっの練習会など、これから設定していきたいと考えています。3年目にして少しずつ盛り上がりを見せた放送部大会の成果を次へのステップとしてがんばっていききたい、そんな思いを胸に放送部大会は無事に終了することができたのでした。

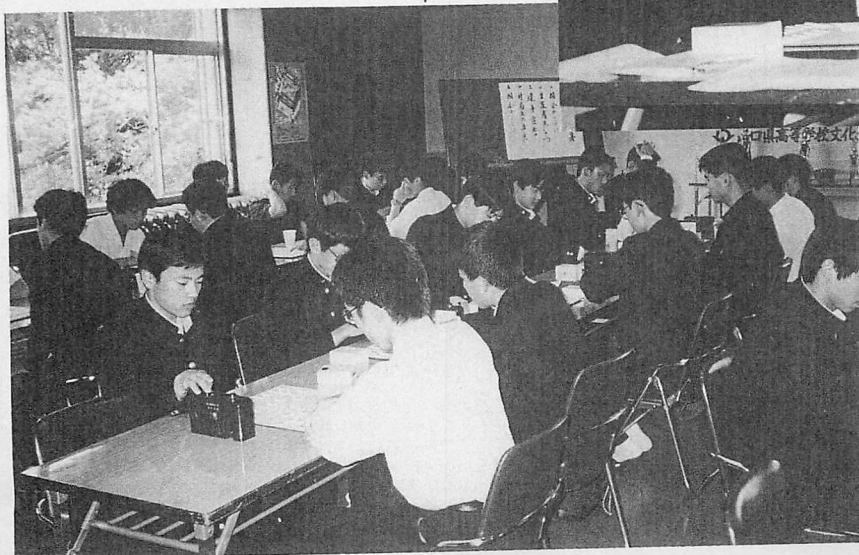
▼県総文／放送部大会 受付風景



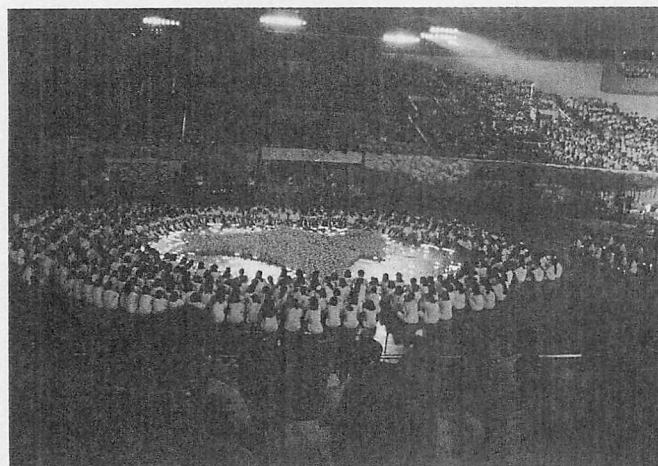
将棋部門

会場：中国新聞社山口支社

▼県総文／対局風景



第20回全国高等学校総合文化祭の記録



第20回北海道大会テーマ

『星よ 集え輝け 北斗の地に』

参加校一覧(山口県高文連)

部 門	高 等 学 校	部 門	備 考(演奏曲目・作品等)
合 唱	野 田 学 園	58	混声『花をさがす少女』・他
吹 奏 楽	県 立 防 府	55	『竹取物語』・『九ちゃんグラフィティ』
器 楽 管 弦 楽	県 立 熊 毛 南	19	『ヴァイオリンとオーボエのための協奏曲』
日 本 音 楽	県 立 厚 狭	10	『あやとり』野村正峰作
吟 詠 剣 詩 舞	聖 光 中 村 女 子	3 2	構成吟『原爆記念日感有り』 (2校合同出演)
マーチングバンド	山 口 県 鴻 城 子	42	『風になりたい』
バントワリング	三 田 尻 女 子	13 17	『MUPPET TREASURE ISLAND』 (2校合同出演)
美 術 工 芸	県 立 萩	1	デザインB1『自然一調和』 乙丸奈緒(3)
	県 立 熊 毛 南	1	油彩50号『止まった時間』 土網香代(3)
	県 立 徳 山	1	デザインB1『STREAM』 延原安輝子(3)
	県 立 山 口	1	油彩40号『樹』 森野浩子(3)
	県 立 西 京	1	アクリルF30号『友人像』 平田隆之(3)
書 道	高 水	1	臨 『五鳳二年刻石』 小畑恵美(3)
	県 立 防 府	1	臨 『敦煌漢簡』 友安聖子(3)
	中 村 女 子	1	臨 『書籍』 後根恵美香(3)
	県 立 下 関 西	1	臨 『邑師僧智元乱等列名』 角 夢乃(3)
	県 立 美 祢 工 業	1	全紙『虚像』 岡崎裕幸(3)
写 真	全紙『乱舞』		武安つとむ(3)
	県 立 小 野 田 工 業	3	全紙『祭・さきかけ』 田中 智(3)
	全紙『フィナーレ・龍』		村岡寛之(3)
	全紙『沈黙の鼓動』		富永泉紀(3)
	県 立 徳 山	1	全紙『沈黙の鼓動』 富永泉紀(3)
囲 碁	県 立 防 府	1	団体戦(男子1名) 福永直昭(3)
	宇 部 女 子	1	個人戦(女子1名) 今井由美子(2)
	県 立 下 関 南	1	団体戦(女子1名) 秋本瑞矢江(2)
	県 立 下 関 西	2	個人戦(女子1名) 団体戦(男子1名) 縄田五良(2) 勝原聡洋(3)
	県 立 下 松	3	男子団体戦(3名) 岡田祐季(3) 澄田長直(3) 友森康彰(3)
将 棋	県 立 厚 狭	1	男子個人戦(1名) 金築克祐(1)
	アナウンス『クリスとマイケル お昼にここ放送局』		井町陽浩(3)
	朗読『光抱く友よ』		石田将之(3)
	朗読『小さいベット』		杉本暁子(3)
	朗読『雨の音』		村本怜子(2)
放 送	県 立 萩	3	アナウンス『地グリーン アドベンチャーマラソン』 廣兼千恵子(3)
	県 立 岩 国	1	アナウンス『ザ・山口便講堂』 石丸由香(3)
	県 立 山 口 中 央	2	オーディオビジュアル部門『ザ・山口弁講堂』
	野 田 学 園	1	ビデオメッセージ部門『山口発・映画制作の夢』
	野 田 学 園	1	ビデオメッセージ部門『山口発・映画制作の夢』
小 計		250	
合 計	22校(延べ31校)	参加生徒数 250名	総会開会式メッセージ 山口県立防府高校 2年 白木 千春 (吹奏楽部門参加生徒)

器楽・管弦楽部門

会場：札幌市民会館

熊毛南高等学校

2年 鶴田 佳子

平成8年8月8日、私たち熊毛南高校音楽部の10人は、札幌市民会館で行われた全国総合文化祭で演奏することができました。これは本当に大きな経験、思い出となりました。

「全国総合文化祭に出場する」という話をはじめて聞いた時、部員は10人でした。しかも全員一年で、先輩は一人もいません。大きな会場で演奏したこともなく、場慣れしていない、という状況で本当に出場できるのかとても不安でした。そして四月になり、期待していた新入部員は3人でした。しかし、今いる10人で最高の演奏をしようと思いました。一年生が入ってきてから、バッハ作曲の『ヴァイオリンとオーボエのための協奏曲BWV1060』の本格的な練習がはじまり、ハードな毎日が続きました。特に一年生は、1年分経験の

ある二年生に追いつかせるために厳しい練習が続くのに文句も言わず、本当によくやってくれました。演奏会が近づくにつれて、みんなの顔色に少し疲れが見えてきていたけれど、暑期中練習に励みました。

そして8月10日、宇都空港を出発し北海道へ向かいました。千歳空港に着き飛行機から降りると、とても涼しくて肌寒いほどでした。煙突付きの家がたくさん並んでいたり、牧場やおもろこし畑が広がっているのを見ると、本当に北海道にきたんだと実感しました。そんな北海道をゆっくりと見ているひまもなく、8月8日になり、いよいよ本番が近づいてきました。ステージ横でお互いの目を見ていると、ここで今ある力を出しきろうという気が湧いてきました。とうとう私たちの番になり演奏がはじまりました。緊張で指がふるえているのが分かりました。でも、ここで弾かな



▲熊毛南高等学校

くはあの苦しい練習の成果が出せる訳がない
と思い一生懸命、精一杯弾きました。演奏はあっ
という間に終わり、私の心の中は「やり終えた」と
いう達成感でいっぱいでした。長い練習の成果を
たった10分間で発揮しなくてはならないから、当
然反省点もあったけれど、みんなの顔は自分の力
を精一杯出せたという満足そうな表情にみえま
した。

この全国総合文化祭に参加して、全国のレベ
ルを直接知ることができました。狭い視野で見
ていたことを広い目で見られるようになったと
おもいました。また、各学校の個性ある演奏を聴
いて新たな発見もできました。そういう意味で
もとても勉強になりました。この貴重な体験を、
毎日の練習やこれからの演奏に生かしていきたい
です。

第20回全国高総文祭の記録

合唱部門

会場：北海道厚生年金会館ホール

野田学園高等学校 合唱部

3年 中湯あや美

“笑顔で歌おう、いい顔で歌おう”そう思ってス
テージに上がりました。全国というステージで歌
うことは私にとって初めてのことだったけど不
思議と私はリラックスした気持ちでした。

去年、先輩達が引退されてから数ヵ月、自分達
が中心になっていろいろな行事に臨むことの大
変さや上級生としてみんなをまとめていくこと
の難しさを何度もあらためて実感しました。夏休
みに入ってから、毎日暑い中みんなで腹筋練習
をしたり発声をしたりと今まで以上に忙しい毎
日でした。辛いこともあったけど、全国の人達の
前で気持ちよく歌えたのはそういう積み重ねが
あったからなのかもしれないと思いました。

私にとって今年の夏は“受験生としての夏”で

もあります。正直言って焦る気持ちもあるけれど
合唱を支えにして充実した毎日を送りたいと思
います。今までの私は部活で疲れたことを理由
にしないで自分自分に甘い生活を送っていたと思
います。しかし全国の総文に参加して同じ様に忙
しい毎日を送っている多くの高校生と出会うこ
とができました。私にとって大きな励みになった
し、自分を反省することもできました。合唱部に
とっても他校の歌声に刺激された部分もあった
だろうし、自分達の課題にもたくさん気がつくこ
とができたと思います。コンクールまで残り少な
いけれど、もっともっと歌いこんで“いい顔”で歌
える様に頑張ろうと思います。そして私自身も今
までの意思の弱い自分とはさよならして勉強に
も部活にも精一杯がんばりたいと思っています。

野田学園高等学校

2年 高木 紀嗣

僕は、今まで一度も全国大会を経験したことがなかったのに、全国各地の学校の合唱はどれだけのものなのか楽しみだった。

この北海道大会のできごとは、僕にとっては何か初めての経験だった。飛行機に乗ったのも初めてだったし、北海道に行くことも初めてだった。9日の日はほとんどが移動ばかりだったけど、後輩や先輩と話をしていたからなかなか楽しかった。そして、あっという間に合唱の本番の日になった。が、そのときなぜか僕の心は落ち着いていた。ただ開き直っていただけだったのかも知れないけど、気持ちのいいくらい心は落ち着いていた。

開会式が終わって、いくつかの学校の合唱を聞いていたけど、どの学校も本当に美しい歌声だった。楽しそうにうたっているのが印象に残った。そんなたくさんの学校の中で、僕が一番心を

うたれた合唱は、大会の最後に歌った北海道の合同合唱団混声220人の『エトピリカ』と『河口』が大変よかった。この合唱を聞いたとき、僕は本当に涙が出そうだった。全国大会に出場して本当によかったと思った。僕たち野田学園の合唱は少し失敗したところもあったけど、みんな自分の歌がうたえたのではないかなと思う。バスの中で野田の歌を聞いたとき『花をさがす少女』の方は、なかなか良かったのではないかなと思った。この経験を生かして、今度9月1日のコンクールでがんばればいい。この北海道の大会は2泊3日でもものすごく短かったけど、僕達のながい人生の中のいい思い出になった。合唱のすばらしさをあらためて感じさせられたと思う。

僕は合唱が大好きだ。この2泊3日の全総文北海道大会、本当に勉強になったし、楽しかった。

“ありがとう北海道。そして、さようなら……。”



▲野田学園高等学校

吹奏楽部門

会場：北海道厚生年金会館ホール

防府高等学校

2年 白木 千春

8月6日、我が防府高校吹奏楽部は札幌の地へと降りたった。数時間前までいた防府とはうってかわった気温の低さにまず驚いた。北海道での全国高校総合文化祭への参加が決定したのは新入生が入部していない四月のことだった。まだ顔も見ぬ一年生と全国という大きな舞台で演奏する姿を想像すると全総文までの日々がとても楽しみに思われた。五月までに30人の新入部員を迎え、一・二年生を合わせると55人という大所帯になった。さらに4人の三年生に加わってもらい59人で八月の全総文めざして活動していくことになった。

部活をやっている者なら誰しも一度は憧れる全国という晴れ舞台。その晴れ舞台へ人数制限のあるコンクールと違い、部員全員で上がれるなんてまるで夢のような話である。特に50人を越える人数で活動している今年のメンバーにとって、59人全員で演奏できることの喜びはひとしおであった。

しかし、北海道へ多勢の部員と共に演奏しに行くとなるとその準備はとても大がかりなものになる。私たちが困ったことに直面した時、顧問の先生方も多くの助言をしてくださるが、「自分達でできることは自分達で運営していく。」というのが我が部の方針だった。演奏曲、参加日程、楽器運

搬など多くの課題に取り組まなければならない。たかが2泊3日と言っても59人全員が安全に、そしていい演奏ができるように準備するのはとても大変だった。

本番当日、演奏会場の北海道厚生年金会館に着くと、多くの役員の方々が朝早くから詰めかけておられた。とても忙しそうに準備しながら気持ちのよい挨拶で丁寧に應對して下さり、慣れない気温の低さと演奏に対する緊張でこぼれていた私達の顔に自然と笑みがこぼれた。

今までに経験したことのない広いステージでの12分間の演奏。今年のメンバーにとって最大の目標は「どんな時にも自分たちの満足のいく演奏をすること。」だった。残念ながらその目標を十分に達成することはできなかったし、多くの反省点を残した演奏ではあったけれども、それからの私達の活動に大きなプラスとなった。

三ヶ月後、私達は東京の普門館のステージに立っていた。誰もが予想だにしないことだっただけに、初めは大きく動揺していたが、この北海道での経験が私達の大きな心の支えとなってくれた。ふりかえてみると、例年になく多忙な1年間だったが、北海道での貴重な体験は私達の一生の宝物となるだろう。



▲防府高等学校

マーチングバンド・バントワリング部門

会場：馬駒内アイスアリーナ

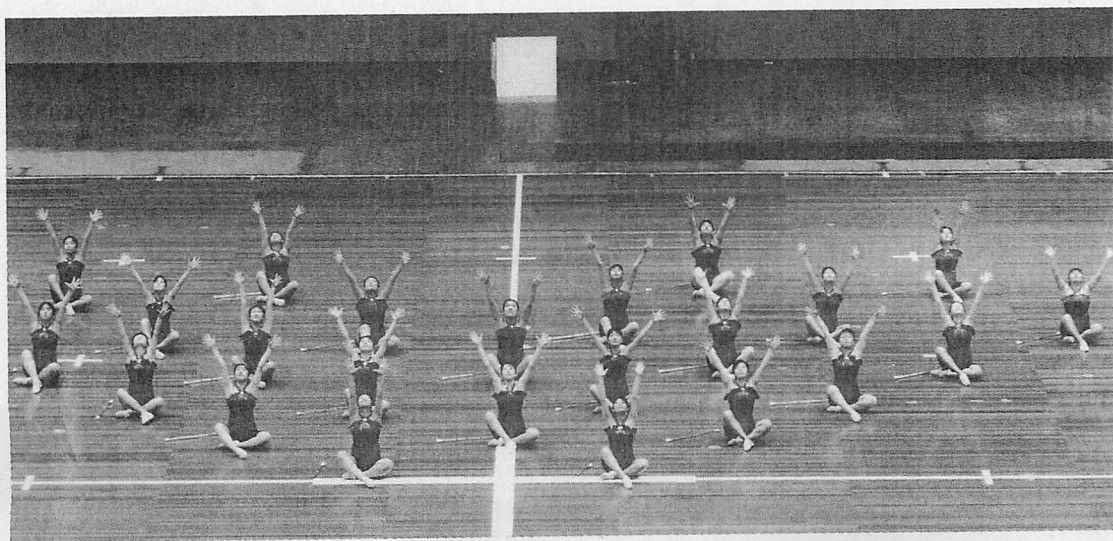
今年度の全国高等学校総合文化祭(北海道大会)には、マーチングバンド部門に山口県鴻城高等学校の生徒42名が参加し、バントワリング部門に三田尻女子高等学校、宇部女子高等学校の2校の生徒24名が参加しました。

三田尻女子高等学校バトン部

3年 林 里江子

豊かな自然がどこまでも続く北の大地、日本の最北端に位置する北海道で、第20回全国高等学校総合文化祭『マーチングバンド・バントワリング部門』が8月8日に開催されました。去年の11月から真夏の暑い日も練習を重ねてきました。講習会の度に、講師の中野先生が「せっかく北海道まで行くのだから、1本でも多くとろうよ」と何度もいわれた。私はそれだけ全国の壁は厚く、県代表の責任の重さを感じました。とにかくやるしかない。それは夏休みのラストスパートをかけた練習でした。夏休み前の練習とは違って演技が一つになりつつありました。8月7日真駒内アイスアリーナに行き、リハーサルを行いました。リハーサルまでの時間、外で練習していると、他校の人達の演技に見とれてしまい、つつい自分自身を見失う私でした。しかし本日まで流した

汗は、私達に自信を持たせ、他の学校にひけを取らない素晴らしい表現ができると確信しました。そして、かつて冬季オリンピックが開催されたアリーナで、勝者のみが味わえる感動を胸に、本番と同じように臨みました。いよいよ本番の日、幕の外では次々と演技を見せています。緊張感あふれる中、私達は赤い衣裳に身をよせ、そして1本のバトンに演技をかけました。途中、ひきつる顔に自分の中から笑顔を送りました。観客席には先生方や仲間の姿が見え、私達は刻一刻と時の過ぎるまま操り人形のように、それぞれの技を使い果たしました。演技を終えると、次々に皆んな思いのままに口を開きます。そして皆の笑顔、たとえバトンが落ちたとしても精一杯やった結果です。私にとって、この全総文祭は最初で最後でした。そして3年間、先生方や仲間と一緒に流した汗と涙は良い思い出の一つであり、大きな宝物の一つとなりました。1本のバトンは時間差の芸をかけ、自分に自信を持ち、仲間を信頼したからこそ、この3年間を終えることができたのです。陰で色々活動してくださった先生方、そしてお互いがフォローしあった仲間達本当にありがとうございました。夢をありがとう。



▲三田尻女子高等学校・宇部女子高等学校

日本音楽部門

会場:千歳市民文化センター

理事長

入江 浩子

(厚狭高等学校教諭)



▲厚狭高等学校



本校の箏曲部が初めて全国総合文化祭に参加できることとなり、本州の端より北斗の地北海道をめざし、一同感謝と不安と期待に包まれて山口を飛び立ちました。

日本音楽箏曲の部門は千歳市民文化センターで二日間46校の参加で、本校は15番目の出場でした。生徒は他校の演奏を聞き、全国レベルの高さに目をみはり感動し、そのためか演奏中緊張のため手はふるえ頭の中は真っ白で、日頃の練習の甘さを思い知ったといいます。今後、後輩の指導に役立てば最良のおみやげとなるでしょう。

最後に、お世話下さった千歳高校の教職員及び生徒さんがさわやかで親切で大変有難く思いました。

厚狭高等学校

3年 笹木ひとみ

私達厚狭高校箏曲部は、8月8・9日北海道で開催された「第20回全国高等学校総合文化祭・日本音楽部門」に参加させていただきました。この大会のために勧誘した新入部員4名と共に必死に練習を重ねたつもりでしたが、いざ北海道で他県の演奏を聞いてみますと、全国レベルの高さに驚き全身の震えが止まらないほどでした。実力の相違に押しつぶされそうな雰囲気の中で、私達は山口県の代表として私達にできる最高の演奏をしようと、心を一つにして頑張りました。8分間の演奏は非常に長いものに感じられましたが、弾き終えた充実感はまた格別のものでした。

全国大会出場は高校生活の中で最も思い出に残る一つになり、これからも一層練習を重ね研鑽に励みたいと思います。貴重な機会を与えていただき有難うございました。

吟詠剣詩舞部門

会場：小樽市民会館

理事長

岩崎 稔生

(中村女子高等学校教諭)

今年も第20回全国高等学校総合文化祭・吟詠剣詩舞部門部門に参加できる栄誉を得た。2人の部員の参加が認められ、昨年と同じ『原爆記念日感あり』を構成吟として発表した。昨年と違う点は、この構成吟の中に詩舞を取り入れたことであった。

8月6日に宇部を発ち、羽田を経由して千歳空港に着いた。参加した2人の生徒も、全国大会に参加できたという喜びの中に、やや緊張した表情

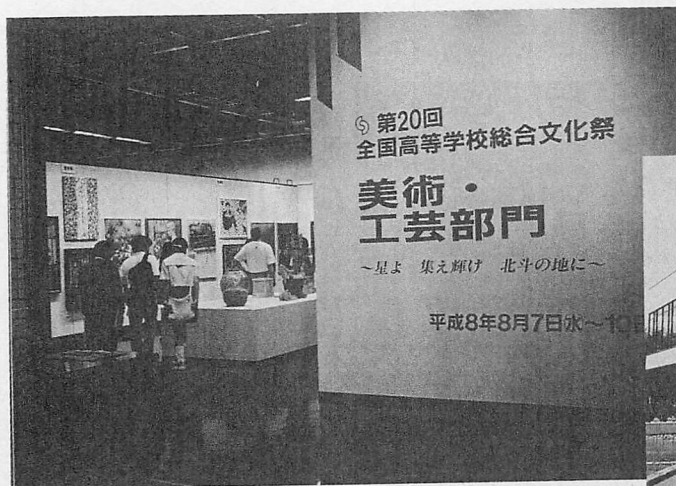


▲ 中村女子高等学校・聖光高等学校 ▶

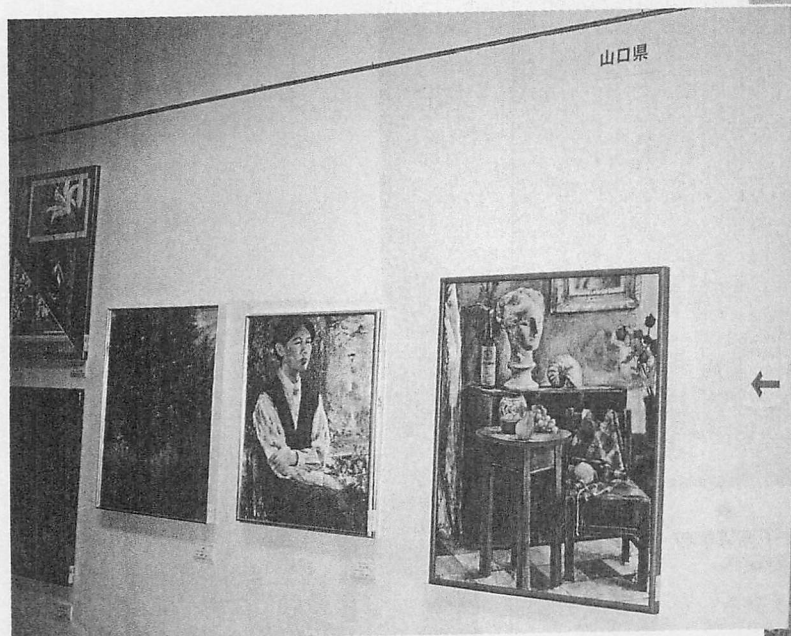
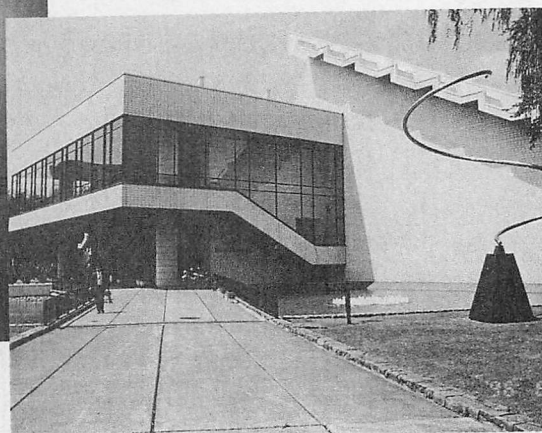


美術・工芸部門

会場：北海道近代美術館



▲
美術・工芸部門会場 ▶



▲
山口県出品作品 ▶



写真部門

会場：北海道開拓記念館

小野田工業高等学校

3年 武安つとむ

北海道江別市で開催された第20回全国高総文祭に山口県の代表として、クラスメート2名と共に参加させていただきました。

北海道へは冬の修学旅行以来ということでしたが、今回は趣味の写真ということで細かいスケジュールを立てて行動しました。

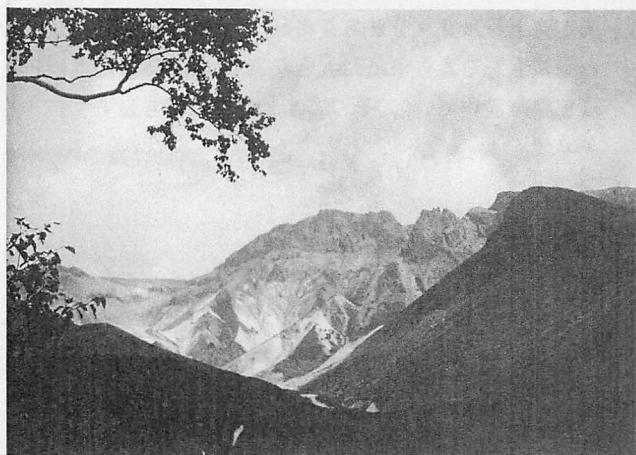
まず、会場へ行き、僕の作品が上位入賞していることがわかり大変感動しました。構図、色合いや動きに気を配った作品で、今も僕の部屋を飾っています。県大会への出品はトリミングなどは顧問の先生に相談しました。

後日、北海道女子短期大学での講評会では、僕の予想通りの講評があり、納得。

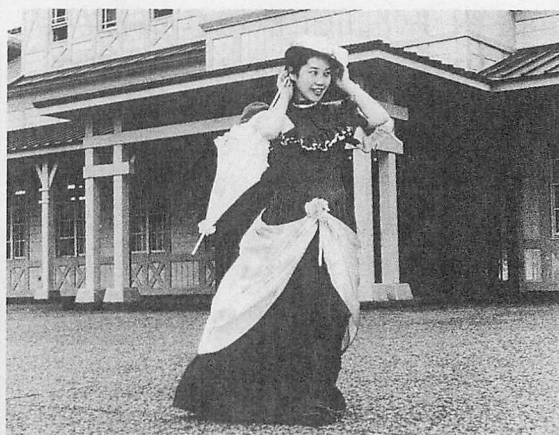
撮影会はモデル撮影会でしたが、まったく注文が付けられず、今となっては大変残念に思っています。せっかくモデルが女子高生？だったのに……。

北海道での5日間は冷夏が続き、晴天の日はありませんでした。富良野のラベンダー、十勝岳麓の温泉、広大に広がる麦畑と北海道を満喫することができました。日頃にはできない様々な貴重な体験をすることができました。この大会で得た感動や知識を、これからも大切にして、僕の生活の中で役立てていきたいと思います。

最後に、北海道大会に参加させていただいた山口県高文連関係の先生方や本校の先生方に心より感謝を申し上げたいと思います。



▲十勝岳



▲撮影会(北海道開拓の村)

書道部門

会場：札幌市民ギャラリー

『北海道での全国大会』

下関西高等学校

3年 角 琴乃

私はこの全国大会に総合開会式から参加した。それは本当に文化そのものであった。昔から受け継がれてきた踊りや演奏、太鼓など普段の生活ではなかなか得られない確かな文化を目のあたりにしたような気がした。中でも北海道の雄大さと優美さと、かつ厳しさを表現した演劇には大変感動をおぼえた。

また書道に関しても同じように感動し驚いた。あの北海道の人達ののびのびとした迫力のある字には圧倒させられ、自分はまだまだ字に自分の思いを出しきれていないと痛切に感じた。北海道の作品だけでなく、全国の他の人達の字にも大変興味をそそられた。お皿に書いたものや何かをテーマにして書いたもの、思いのままに自分流の字で書いたものなど「これが今の私達だ」と訴えてくるような作品が多くあった。本当に今回の大会に参加し色々な作品を目にし、「書」というものだけでなく、今の私に足りない物を見つけたような気がする。参加できたことを心の底から感謝し、喜ばしく思う。

防府高等学校

3年 友安 聖子

私は8月6日から10日の間、北海道で開催された全総文の書道部門に参加しました。

全総文は、北海道の高校生が丸一となって運営された総合開会式で幕が上がりました。その開会式では日本の文化だけでなく海外の文化にも触れることができとても感動的な一時を過ごしま

した。

2日目には、いよいよ書道作品の展示場へいきました。そこで見た全国の高等学校の皆さんの作品は、一点一点生き生きとして工夫に富んでおり、とてもすばらしくそのスケールの大きさに感動させられました。

又、講評会では貴重な講評をいただき、勉強に、そしてこれからの励みにもなりました。此のように学ぶことの多かった全総文北海道大会に参加でき本当によかったと思います。また、高校生活の忘れられないよい思い出になりました。

『北の大地での熱き交流』

中村女子高等学校

3年 後根 恵美香

交流会の開会式の後、北海道の高校生によるデモンストレーションがありました。そこでは何メートルもある大きな紙に大きな筆で、体全体を使って字を書いていて、その姿がとても気持ち良さそうでした。

デモンストレーションの後、班に分かれ字を書いた後班の中で二人ほど、班のみんなの前で字を書いたのですが、そのうちの一人の北海道の高校生が「木間」を体全体を使って書いている様子を見て、書いた字を見るのもとても勉強になるけれど、どのように書いているのかを見るのもとても勉強になると思いました。

他の学校の生徒の作品を見て、いろいろな表現の方法があることを知り、他の学校の生徒といろいろな話しができ、とても思い出に残る交流会でした。

高水高等学校

3年 小畑 恵美

私は、北海道で開催された全国総文祭の書道部門へ参加した。こういう大きな大会は生まれて初めてだったので緊張したが、他の県代表の人たちも同じ気持ちで来ているのだろうと思い始めたら、緊張もほぐれ平常心になった。

この大会は生徒主体で運営され、活気にあふれていてとても驚いた。そして書道の作品をひと回り見て思ったことは、作品の一つ一つに「一生懸命に書いたぞ。」という自信のような気持ちが表

われていることだった。

大会最終日の交流会では、他校の人たちと書を書きあう会で、上手な人ばかりで私はオロオロしていたが、いつも通りでいこうと思ってせっせと書いた。そして、会もひと段落つくと自分の中でやり遂げたという充実感があふれてすがすがしい気持ちになった。

こんな機会はこれから先、多分ないと思うので決して忘れずに「自分の自信。」として生かしていきたい。

第20回全国高総文祭の記録

囲碁部門

会場：江別市民会館

理事長 **竹内 洋春**
(小野田高等学校教諭)

第20回全国高校総文祭囲碁部門第9回大会は、平成8年8月9日(金)、10日(土)北海道江別市民会館で開催されました。団体戦は各都道府県から選抜された男子2名、女子1名のチーム編成で36

チーム、個人戦は各都道府県から男女各1名ずつで、男子は34名、女子は28名、合計170名の参加がありました。

初日は開会式の後4局打ち、2日目は2局打ち、プロ棋士による交流会がありました。山口県からは、団体戦に福永直昭(防府高校)・勝原聡洋(下関西高校)・秋本瑞矢江(下関南高校)、個人戦に縄田五良(下関西高校)・今井由美子(宇部女子高校)の5名が参加しました。

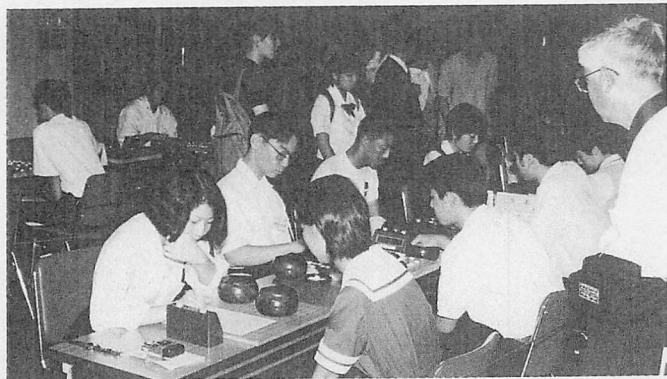
対局後は、碁を通して感想を語り合ったり、ときには引率の先生が中に入って交流を深めていました。対局にはすべて対局時計を使いますので時間との闘いでもあります。

また、1戦ごとにスイス方式と呼ばれる方法で順位が計算されて成績上位者から順番に組み合わせが行われ星のつぶし合いとなる厳しい戦いとなりました。結果は、



<団体戦>

福永 直昭(二段) }
勝原 聡洋(二段) } 3勝3敗 第16位
秋本瑞矢江(初段) }



<個人戦>

縄田 五郎(二段) 2勝4敗 第31位
今井由美子(三段) 4勝2敗 第4位

となりました。常に上位の成績を保った今井由美子さんの健闘が光りました。しかし、全員が有段者で惜敗の対局が多く勝ち切ることの難しさを痛感しました。

2日目の午後の交流会は、プロ棋士石倉昇(日本棋院八段)・中村泰子(全道女流囲碁選手権者)による囲碁講演があり、楽しく拝聴しました。

第20回全国高総文祭の記録

放送部門

会場:かでる 2・7

萩高等学校

3年 井町 陽治

放送部門の中でもかなりの異端児である僕が、さも放送部門の代表のようにこの会報に文章を載せてもらっても良いものかと聊か後めたさのようなものはありますが、つれづれなるままに全国大会での感想等を書いてもらいたいので遠慮なく書かせていただくことにします。

放送部門と聞いてピンとこない人のために少し説明をしておくと、放送部門の中にはビデオメッセージ部門、オーディオピクチャー部門、アナウンス部門、朗読部門と4つの部門があり、それぞれがかなり違った特色をもっていて、なかなか奥の深い世界なわけですが、何分活動がジミなのであまりその生態が皆様に知られていないとい

う不運な部門であります。皆様、今後はなにとぞお見知りおきくださいませ。

さて、前置きが長くなってしまいましたが、僕は放送四部門の中からアナウンス部門で全国大会の切符を手にしました。時は1995年11月の事でした。それから月日は流れ1996年8月、場所は北海道。全国大会に出場できる事よりも山口県からはるばる北海道に行ける事の方がずっとうれしかった僕、大会そっちのけ練習もしないではしゃぎまくっていたのでした。まったく不謹慎な事です。大会は8日と9日に行われる予定になっていたので僕を含む放送部門山口県代表者御一行は7日の朝に故郷山口県を旅立ったわけですが、やはり北海道は遠かったのです。さまざまな乗り物を使い、ホテルに着いたのは夕方。そのま



まベッドにボタンQでした。沖縄の皆様のご苦勞を考えると頭の下がるおもいです。

では大会の話をしたと思うのですが、大会の感想を一言で表すとすれば、「いろんな人がいた。」です。見た目だけ取ってみても、どんな田舎から来たんだろう？って子からコギャル風の子まで千差万別。特に放送部門は女子生徒が大半を占めている事もあってか、制服のスカートの長さには興味深いものがありました。ちなみに山口県はかなり長い部類に入と思いました。次に気が付いたのは言葉です。これは放送部門特有の物の見方かも知れませんが、言葉にはすごく興味をもちました。これが全国大会の醍醐味だなあと思ったものです。それぞれの人が同じ日本語をベースとしていろんな言葉を話す。なんとなくロマンを感じました。そしてロマンを感じた僕は、なまりが少ないと地元では言われている山口県の若い世代を代表して、大会の会場で出逢った高校生（彼は新聞部で、放送部門の取材に来ていた。）に「僕なまっていますか？」と聞いてしまったほどでした。ちなみに僕はなまっているそうです。ここでもう一つ書いておかなければならないのが、この大会が他でもない放送部の大会だった事です。

放送部門の生徒は基本的には作品や発表の場では標準語を使います。すなわち普段から標準語の勉強をしている学生が集まっているわけであり、僕が地元で周りからそう言われているように、比較的なまりの少ない全国の高校生が集まった中で僕は「いろんな言葉」に「方言」を感じた事に日本の広さ、さらに世界の広さまでも感じてしまいました。なんだか自分の書いてる事がわかんなくなってきたので話を大会の内容に移したいと思います。

大会の内容を二言で表すとすれば、「みんな日本語上手いな？」と「似た人が多い」となると思います。全国大会だけあって皆さん日本語すごくキレイで、びびってしまいました。その反面、多くの人が同じようなリズムで、同じような内容を同じようなトーンで読んでいる気がしました。これはあくまでアナウンス部門と朗読部門での話です。放送部門の中で唯一動く映像を使うビデオメッセージ部門に関して言えば、上手い作品とそうでない作品の差をすごく感じましたが、まだこの部門は全国での参加が他の部門に比べて少ないらしいので、これからの部門だと思います。オーディオピクチャー部門は各校目ざす所の差がすご

く違いすぎる気もしました。オーディオピクチャーを絵のあるアナウンスとして作っている物と、ラジオドラマに絵がついている感じでやっている物とあっておもしろいと思いました。けっこう批判的な事も書いてしまいましたが、全国大会はすごい所である事には違いなかったです。僕なんてまだまだだなと思ってしまいました。そして、ヤツらに負けないようにがんばるぜ!とも思いました。今思うと全国大会に行けた事は大会の結果とかではなく、今まで知らなかった人と出逢う、または見る事で、プラスになったなあと感じます。

最後に、僕に全国大会行きのチャンスをあたえてくれた全ての皆様、及び、悪態をたれながらも



▲萩高等学校

手伝いしてくれた部活の仲間にとありがとうと投げキスをします。チュッ!

第20回全国高総文祭の記録

将棋部門

会場:江別市民会館

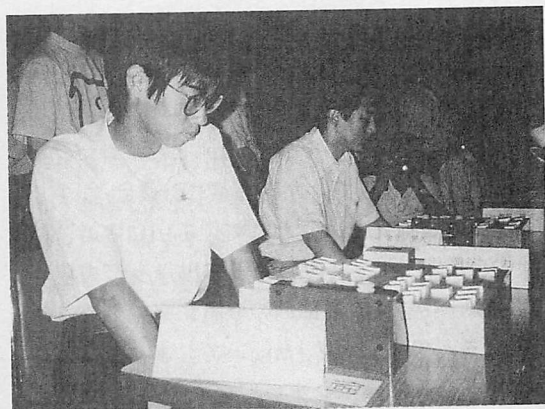
理事長 **弘中敏之**
(下松高等学校教諭)

第20回全国高等学校総合文化祭将棋部門兼第32回全国高等学校将棋選手権大会が、8月7・8

日にかけて、北海道中央部に位置する江別市民会館で開かれました。従来は全国新聞社事業協議会



▲山口県代表メンバー<生徒右より>金築克祐(厚狭高校) 友森康彰、澄田長直、岡田祐季(以上3名は下松高校)



と日本将棋連盟の主催で開かれていた全国高等学校将棋選手権大会が、昨年度より全国高等学校総合文化祭と共催となりました。そのため、関係諸団体との緊密な連携の下で、以前にも増して盛り上がった大会となりつつあります。会場は、JR高砂駅より徒歩5分と近く、運営も将棋処北海道とあって、極めてスムーズに行われました。全国各地から、男子団体41・男子個人42都道府県、女子団体18・女子個人49都道府県の計268名が参加して熱戦が繰り広げられましたが、各選手とも盤上没我、十二分に個性を発揮しました。

山口県の選手もよく頑張りを、団体戦は下松高校が2回戦で、静岡県の実力校を接戦の末2対1で下し、ベスト16(記録は第9位)の成績を残しました。また、個人戦では厚狭高校の金築克祐君が、一年生ながら旋風を巻き起こし、見事三位入賞を果たしました。全体的に、本県の将棋は全国的に見ても、伸び伸びとして素直・爽やかな将棋が指せていたとおもいます。

厚狭高等学校

1年 金築 克祐

8月7日から8日まで、『星よ集え輝け北斗の地に』のスローガンの下、全国総合文化祭将棋部門が開催されました。将棋部門では、それぞれの県大会を勝ち抜いてきた団体戦の選手や個人戦の選手が江別市の市民会館に集合しました。会場では300人近くの人前で、さすが県大会を勝ち抜いてきた人たちだけあってすごい気迫を感じました。また、この全国場で早く対局をしたいと思いました。高校の全国大会のレベルはとても高いということは知っていたので、とりあえず一回戦の突破を心がけ、あせらず自分の将棋を指そう

と思い一回戦に臨みました。

一回戦では、自分らしい将棋が指せ、運良く勝てました。一回戦が終わった時、とりあえず一勝を上げることができ少し安心した感じがしました。

二回戦では、一回戦を勝った勢いがあったせいか、またも勝つことができました。また、この時点でベスト8が決まり、自分の中では「よくやったな」と思いました。三回戦の相手は地元北海道の人でした。北海道は全国の中でも特にレベルの高いところなので、負けてもともとという感じで三回戦に臨みました。三回戦は途中からとても苦しい展開になりましたが、最後に逆転し、またも勝つことができました。こうして準決勝まで残ることができましたが、準決勝からは二日目なので、一日目の夜は準決勝の対局を早くしたいという気持ちでいっぱい、なかなか眠りにつくことができませんでした。

そして大会二日目、僕はここまで来ることができるとは全然思っていなかったので、少し緊張気味でした。

準決勝では、今回の優勝候補といわれていた大阪府代表の人と対戦することになりました。僕はこんな強い人と対局でき、とてもうれしく思いました。準決勝では、途中勝てる場面があったような気がしましたが、結局負けてしまいました。優勝は逃がしたものの、予想以上の好成績が残せ、満足感でいっぱいでした。この全国場でここまで指すことができ、大変よい経験ができ、よい勉強になりました。また、この大会で得た沢山のことを将棋だけでなく、これからの生活に役立てていければと思っています。

山口県高等学校文化連盟自主事業実施校一覧

番号	学 校 / 事 業	ピ ア ノ	マリンバ	フルート	尺八と箏 オベレッタ	交響楽団	演 劇	金管合奏
1	安 下 庄	63			平7	平4		
2	久 賀	63				平3		
3	岩 国							平1
4	岩 陽							平1
5	岩 国 商 業			平3			62	
6	岩 国 工 業					平2	平6平8	
7	坂 上			63		平5	平3	
8	広 瀬			63				
9	高 森					平2		
10	柳 井					平7		
11	柳 井 商 業							
12	柳 井 工 業						平1平4	
13	熊 毛 南	63				平6		
14	田 布 施 農 業					平3	平5	
15	田 布 施 工 業							
16	光	63				平8		
17	光 丘					平8		
18	熊 毛 北					平2	63平7	
19	下 松							
20	華 陵	63			平7	平8	平1	
21	下 松 工 業	63				平1		
22	徳 山		定平4					
23	徳 山 北		63		定平8	平4	平8	
24	徳 山 商 業		平5	63			平3	
25	徳 山 工 業						平4平7	平1
26	鹿 野		平3			※	平1	
27	新 南 陽						平5	
28	南 陽 工 業	63	平1			62		
29	佐 波			63				
30	防 府				平7			
31	防 府 西							平1
32	防 府 商 業		定63				平6	平1
33	山 口		定62			平2		
34	山 口 中 央	63						
35	西 京	62				平4	平7	
36	山 口 農 業					平5	平3	
37	宇 部	63						
38	宇 部 中 央		定平1				63	
39	宇 部 西					62平6		
40	宇 部 商 業			63		平8	平3	
41	宇 部 工 業			平2				
42	小 野 田		定63					
43	小 野 田 工 業		定63				平4	
44	厚 狭					平4	※	
45	美 祢			平1	※(胡弓)		平2	
46	大 嶺	62	平4			63	63	
47	美 祢 工 業							

ピアノ ——— 弘中 孝

マリンバ ——— 水野与旨久

フルート ——— 西田直孝トリオ

交響楽団 ——— 山口交響楽団

尺八と箏 ——— 中村 明一、八木美知依

(胡弓) ——— 姜建華・楊宝元

番号	学 校 / 事 業	ピ ア ノ	マリンバ	フルート	尺八と箏 オペレッタ	交響楽団	演 劇	金管合奏
48	田 部					平 1		
49	西 市					63		
50	豊 浦							
51	長 府							平 1
52	下 関 西							
53	下 関 南							
54	下 関 第 一						平 5	
55	下 関 中 央 工 業						平 6	
56	下 関 工 業	62					平 2	
57	響		平 5			平 1		
58	豊 北	62				平 3		
59	日 置 農 業	63	平 5		※		平 2	
60	大 津	63					平 5	
61	水 産							
62	萩	63				平 3	平 6	
63	萩 商 業	63				平 7	平 2	
64	萩 工 業					平 6	平 4 ※	
65	徳 佐			分 63		63		
66	奈 古					平 1 ※		
67	盲	63	平 3		平 8	平 7	平 1	
68	聾							
69	岩 国 養 護		平 3					
70	田 布 施 養 護		平 6			62		
71	徳 山 養 護			平 1				
72	防 府 養 護	62	平 3	63				
73	宇 部 養 護		63 平 5			平 1 ※		
74	下 関 養 護		平 2 平 6					
75	萩 養 護		平 6					
76	下 関 商 業							
77	高 水						62	
78	柳 井 学 園		平 6				63	
79	聖 光					平 2		
80	山口県桜ヶ丘							
81	三 田 尻 女 子						平 7 ※	
82	多 々 良 学 園							
83	中 村 女 子	63				平 2 平 5		
84	野 田 学 園	63						
85	山 口 県 鴻 城					※		
86	宇 部 鴻 城					平 7	※	
87	宇 部 女 子							
88	美 祢 中 央							
89	香 川					平 1 平 5		
90	サ ビ エ ル							
91	早 鞆							
92	下関女子短期大学付属	62 63	平 4		平 7		平 8	
93	長 門					平 6		
94	萩 光 塩 学 園							

オペレッタ ——— 木月 京子

演劇 ——— のんた・宇部芸術座・海峡座

金管合奏 ——— 東京金管五重奏団

62～平8 ——— 実施年度

※印 ——— 平成9年度実施予定

《自主事業》 山口県交響楽団演奏会

華陵高等学校

3年 堀常智恵子

山口県交響楽団の演奏会は私たちが生のオーケストラの演奏を鑑賞できる良い機会となりました。曲目は全て誰でも一度は聴いたことがある曲だったので、あまりオーケストラの演奏を聴くことがない私たちにも親しみやすく、楽しく鑑賞することができました。特に印象に残ったのは、山響の団員の方が鑑賞者と共に音楽を作ろうと努力されている姿勢です。「指揮の基本」と言われている「ラデッキー行進曲」の指揮を生徒二人とマイク先生が体験されましたが、指揮をする側も演奏する山響の団員の方も大変そうでした。でも見ていた私たちはとても楽しく鑑賞できたと、見た目は簡単そうな指揮の難しさを実感することができました。また、校歌をオーケストラの伴奏で歌うという、普通のコンサートでは味わえない良い経験もしました。ほとんど初見だと聞きましたが、そうは思えない素晴らしい演奏で、私たちが歌うのが申し訳ないような気持ちになって



しまうほどでした。それでも歌い終わった後は、お互いに拍手をし合い、和やかな雰囲気になりました。

今回の演奏会で「堅苦しい」という私たちのオーケストラに対する印象が変わったのではないかと思います。今まで全く興味がなかったという私の友達も、「こういう音楽もいいね。また聴きたい。」と言っています。私も機会があればまた聴いてみたいし、オーケストラの一員として演奏してみたいと思うようになりました。このような演奏会を華陵高校だけでなく、もっと多くの学校で開けるといいと思います。



華陵高等学校

2年 藤井 美緒

山口交響楽団の演奏会がある、と聞いた時、まず思ったことは「ああ、寝るかも」だった。由緒あるイギリスの何とやらを解説込みでえんえんときかされる……そんな様子を想像していた。が、実際は一味か三味か違っていた。奇跡的なことに退屈しなかったのだ。

普通演奏会といえば、聞き手は聞き手、演り手は演り手に徹するのが筋というものだろう。しかし、今回の楽団は、いい意味で予想を裏切ってくれた。聴衆に投げかけるような曲の解説(しかもジョークまじりのもの)、有志者による即席の指揮参加……こういった特殊なイベント的要素も重要だが、何より、全般を通した会の雰囲気が、常に心地よい状態に保たれていたことが一番のポイントだろう。全体の雰囲気とは、奏者と聴衆の両方が参加し合って生まれるもので、決して片方

だけでは成立しないものである。山響と華陵の間には、メリハリがあり素晴らしく、かつアットホームな空気が流れていたように思われる。

高校生の音楽とといえば、ニューミュージックが主である。したがって、強制でもない限りは生の演奏に触れる機会など、雄の三毛猫より少ないのだ。(興味のある人を除いては)幸いにも、一番良い形でその機会を持つことができた我々は、各自得る物があつたのではないかと思う。少なくとも、演奏会やクラシック音楽を今までより身近に感じることはできただろう。その地点で、今回の企画は成功だったと言えるのだ。

後から聞いた話だが、山響の方々はこの上ないくらい一生懸命演奏して下さったらしい。それを聞いて嬉しく思う。ただ一つ難を言えば、もう少しなじみ易い曲のほうが良かったのでは? 個人的に…。

《自主事業》 日本の音楽～尺八と箏

『尺八と箏の演奏を聴いて』

徳山高等学校・定時制

2年 山本 勇介

箏の音は意外と長くのびないと思った。

演奏を聞いて思った事はもう少し遠くから聞いてみたかった。迫力とか、そういうものを求めるんじゃなくて、ぼくとしては尺八や箏というのは遠くから聴く静かなイメージというのがあるからだ。だから最後に弾いてくれた曲にはおどろいた。ああいうわりと現代風の曲にも尺八や箏というのはうまく合うものだという事を思い知らされた。ぼくの好きなバンドの曲の中で、同様に溶岩とかそういう熱い地帯をイメージした曲があり、聴いているとシンクロして少しうれしかった。

そのバンドというのはどちらかと言えば少し

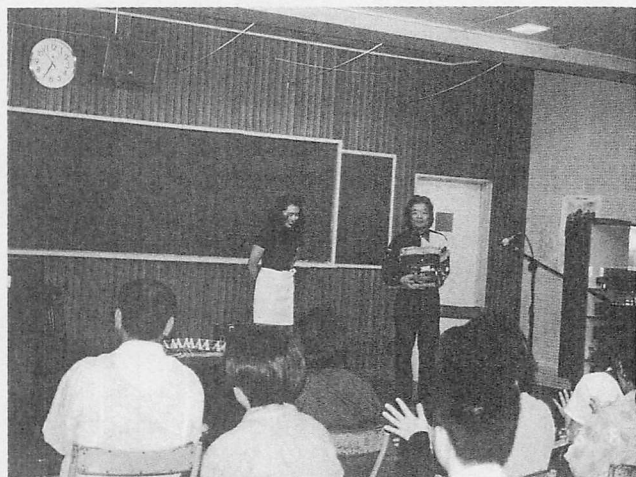
マイナーな方で、名前を聞いてもほとんどの人は知らないだろう。だけど、聴いてみるとすごくイメージがふくらむような、ノリのいい曲で、曲のくだりの部分が魅力的だと思うほどの唯一尊敬するバンドだ。それと似ていたという事



で今回聴かせて頂いた曲はかなり身近に感じた。

中村さんの演ずる尺八のかなり高い音と、八木さんの演じた箏の音に、強いエコーを加えて、ハードロック調で奇麗な曲を演奏したらどんなにすばらしいだろう。と、自分の好みに合わせていろいろと想像しているが、もう会えないと思うととても無念でならない。

だけどぼくはぼくの好きなバンドの曲を聴くたびに中村さんと八木さんの演奏してくれた音を思い出すとおもう。そしてそのたびに自分も何かやってみようという気になる。



<自主事業> 木月京子・オペレッタの世界

山口県立盲学校高等部

普通科3年 三上 敏幸

木月さんの歌の進行の中で、皆んなで歌う場面が何度ありました。体育館は寒かったけど声を出しているうちに体があったかくなり、気持ちも高ぶり元気ができました。知っている歌も多くあきることなく1時間がすごしました。

なかなか日頃生演奏に触れる機会もなく、木月さんの歌声がバンバン体につつつかって来るのが感じられ、又このようなコンサートが身近で聞けるといいなと思いました。

山口県立盲学校中学部

3年 藤中 正行

第一声を聞いたときはちょっと恥ずかしかった。舞台から降りて歌っておられた時もちょっと恥ずかしかった。

そばを通って歌われた時は、おどろきに変わった。「すごい。僕たちの歌とぜんぜんちがう」と感じた。誰かがいっていた「体全体が楽器だ」というのを実感できた気がする。僕も少し楽器をやるけど、プロっていうのはすごいんだなと考えさせられた。



《自主事業》 巡回演劇公演

『家 族』

徳山北高等学校

1 年 広政亜由美

センタの実験のために「シェルター」に三日間籠って生活する事になった四人。実験の途中、原因不明の停電のせいで「シェルター」の中に閉じ込められ、実験を一時中断しての家族団らん。まだ幼いカノに、祖父であるセンジューローは、台風の話をし始める。思いがけなく訪れた一家団らんの時間。この短い時間の中で、四人はそれぞれの思いを話す。家族がこうしてそろってゆっくり話せる機会なんてそうないのでないか、私はそう思った。故障が回復すると、カノもセンジューローも外へ飛び出し、赤とんぼを追った。そんな二人を見て、この実験は何の意味も持たない事に、センタは気付いたのだと、私は思った。「シェルター」の開発なんかよりも、家族の温かい絆こそが一番大切なのではないかと、この「ザ・シェルター」を見て思った。

徳山北高等学校

3 年 貞森裕美子

劇を見たのは何年ぶりかだったので、演技をするのを見て上手だなと思った。

この話は、シェルターを販売するため実験をするというものだった。そして実験中に機械が故障したため、家族は機械が直るまで外には出られないのである。もし私がこのような状況にいたとしたら、平常心を失ってしまうだろう。もし本当に核戦争が起こって、核シェルターに逃げ込んで助かったとしても、機械の故障でシェルター内に閉じこめられて死ぬのだったら嫌だなと思った。

核シェルターを作るということは、将来核戦争が起こるといっているようなものだと思う。設備の整ったシェルターを作り出すよりそれを使わなくてもよい核兵器や戦争をなくすべきだと私は思う。

今回の劇は、シェルターという私の身の回りにはないような物から、核について考えさせられた。



徳山北高等学校

3年 足達生美枝

今回、ザ・シェルターという劇を見て思ったことは、戦争への備えに必要なのは、機械的な物ではなく、自分たちの強い意志であることが分かった。機械に頼ってばかりではだめだということ、人間性を失わないことが大切なのだ。セイジューローは、きっとそれをわかっていたんだと思う。だから、センタに少しひどかったのかもしれない。

家族は、いつも楽しくすごさなければ、家族で

はないという雰囲気だった。

それに、まだ戦争が起こるとも限らないのに、センタの仕事のせいで、水なども制限されてはこまると思う。戦争への備えは必要かもしれないけど、人間をモルモットのように実験する仕事はいやだな。しかも、機械に頼りっぱなしの生活。機械はよくこわれる。原因がわからなければ、それでおしまいだ。悪く言うとかあてにはならないと、今日の劇を見て思った。やっぱり大切なのは、自分たちの心の備えだと思う。

第11回全国高等学校文芸コンクール都道府県別応募状況

区	分	学 校 数	小 説	評論研究	詩	短 歌	俳 句	文芸部誌	応 募 点 数
1	北 海 道	3	3	0	3	3	0	2	11
2	青 森	35	5	0	62(1,766)	68(2,138)	146(1,713)	1	282(5,618)
3	岩 手	48	23	6	95(986)	169(2,536)	138(5,680)	1	432(9,203)
4	宮 城	2	2	0	5	3	0	1	11
5	秋 田	16	1(6)	1(7)	17(121)	39(104)	57(152)	3	118(393)
6	山 形	2	1	0	5	3	0	0	9
7	福 島	8	6	0	12	9	3	5	35
8	茨 城	8	5	0	16	6	3	6	36
9	栃 木	0	0	0	0	0	0	0	0
10	群 馬	6	2	0	18	5	3	2	30
11	埼 玉	13	6	1	1	0	0	11	19
12	千 葉	3	1	0	9	30	69	1	110
13	東 京	6	6	0	1	9	0	2	18
14	神 奈 川	1	0	0	2	3	0	0	5
15	山 梨	10	4(41)	0	4(200)	16(195)	11(335)	0	35(771)
16	新 潟	2	4	0	17	0	0	1	22
17	富 山	8	2	0	22(284)	93(693)	24(264)	2	143(1,243)
18	石 川	6	5	0	8(18)	64(244)	102(262)	0	179(524)
19	福 井	7	4	1(6)	6(108)	12(102)	12(37)	0	35(253)
20	長 野	1	0	0	0	375	0	0	375
21	岐 阜	3	0	0	3(10)	0	0	2	5(12)
22	静 岡	11	11	0	35(86)	6	3	5	60(91)
23	愛 知	4	4	0	12	0	0	1	17
24	三 重	0	0	0	0	0	0	0	0
25	滋 賀	0	0	0	0	0	0	0	0
26	京 都	2	1	0	6	0	0	1	8
27	大 阪	2	0	0	9(94)	3	6(36)	2	20(132)
28	兵 庫	4	7	0	10	3	6	1	27
29	奈 良	3	0	0	3	0	0	2	5
30	和 歌 山	3	1	0	4	0	6(15)	0	11(15)
31	鳥 取	0	0	0	0	0	0	0	0
32	島 根	2	1	0	5(46)	0	0	0	6(46)
33	岡 山	5	2	0	7	3	18(318)	0	30(318)
34	広 島	2	3	0	5	6	6	2	22
35	山 口	5	17	1	10	0	12	1	41
36	徳 島	2	0	0	4	3	0	1	8
37	香 川	5	1	0	6	0	3	3	13
38	愛 媛	5	6	0	4	0	0	2	12
39	高 知	0	0	0	0	0	0	0	0
40	福 岡	3	1	0	9	1	0	2	13
41	佐 賀	0	0	0	0	0	0	0	0
42	長 崎	1	2	0	0	0	0	0	2
43	熊 本	3	3	0	15	6	0	1	25
44	大 分	12	3(43)	0	11(105)	30(132)	53(256)	0	97(536)
45	宮 崎	0	0	0	0	0	0	0	0
46	鹿 児 島	3	3	0	2	0	0	0	5
47	沖 縄	13	5	1	50(491)	3	332(9,044)	3	394(9,538)
	合 計	278	151	11	513	971	1,013	67	2,726
	応 募 総 数		(361)	20	4,241	6,160	16,049	67	26,898

() は県又は学校段階での応募数を含めた数

部門別応募状況一覧

区 分	応募点数 点	応募者数 人	公 私 別		学 年 別			男 女 別	
			公	私	1	2	3	男	女
小 説	151 (214)	144 (208)	91	9	32	56	56	32	112
文芸評論 文芸研究	11 (16)	11 (16)	10	1	1	6	4	2	9
詩	513 (1,202)	372 (906)	141	13	109	128	135	70	302
短 歌	971 (1,444)	424 (595)	105	19	94	228	102	89	335
俳 句	1,013 (2,295)	496 (913)	105	9	161	139	196	171	325
文芸部誌	67 (54)		57	10					
合 計	2,726 (5,225)	1,447 (2,638)	509	61	397	557	493	364	1,083

入賞作品数一覧

区 分	応募点数	応募者数	最優秀賞	優秀賞	優良賞	入選	合計
小 説	151	144	◎1	6	6	5	18
文芸評論 文芸研究	11	11				2	2
詩	513	372	1	6	11	15	33
短 歌	971	424	1	6	10	15	32
俳 句	1,013	496	◎1	5	10	15	31
文芸部誌	67		◎1	3	5	奨励賞 6	15
合 計	2,726	1,447	5	26	42	58	131

() 前回

第1回(昭和61年度) 17都道府県 110校 890点 630人
 第2回(昭和62年度) 30都道府県 202校 1,977点 1,297人
 第3回(昭和63年度) 35都道府県 210校 1,830点 1,235人
 第4回(平成元年度) 39都道府県 235校 1,990点 1,347人
 第5回(平成2年度) 41都道府県 240校 2,112点 1,286人
 第6回(平成3年度) 41都道府県 269校 2,533点 1,595人 総点数 15,842点
 第7回(平成4年度) 42都道府県 282校 2,798点 1,531人 総点数 16,370点
 第8回(平成5年度) 41都道府県 290校 1,919点 1,173人 総点数 17,512点
 第9回(平成6年度) 37都道府県 271校 2,834点 1,643人 総点数 19,143点
 第10回(平成7年度) 43都道府県 293校 5,225点 2,638人 総点数 21,214点
 第11回(平成8年度) 40都道府県 278校 2,726点 1,447人 総点数 26,898点

文芸コンクール受賞作品(山口県)

小説部門	優秀賞	県立山口高等学校 1年 大林 晴華	『風が見える丘』
	入 選	県立防府高等学校 1年 大久保一基	『妖 精』
詩 部 門	入 選	県立防府高等学校 1年 中司 貴恵	『空の道』
		県立防府高等学校 1年 石川 涼子	『そよそよそよ風』

平成8年度 山口県高等学校文化連盟事業報告

月	日	事	業	会 場
4	11 24		会計監査 第1回高文連企画運営委員会	山 口 中 央 高 校 山 口 中 央 高 校
5	10 21 26	県高校総合文化祭(将棋)	高文連評議委員会 全国高等学校文化連盟評議委員会	萩 市 東京都 フロラシオン青山 中国新聞社(山口支社)
6	12 14 15~16 16 27	尺八と箏 県高校総合文化祭総合開会式 県高校総合文化祭(器楽・管弦楽、合唱、吹奏楽 マーチングバンド・バトントワリング) 県高校総合文化祭(日本音楽、吟詠剣詩舞) 山口県交響楽団演奏会		徳山高校(定時制) 萩市民会館 萩市民会館 山陽町文化会館 華陵高校
7	9 12	平成7年度「高文連」発行	中国地区高文連関係者合同会議	鳥 取 県
8	6~10 7 7~8 29~30	全国高校総合文化祭 第7回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演	全国高等学校文化連盟拡大理事会 全国高等学校文化連盟各専門部会	北 海 道 北 海 道 北 海 道 東京都 国立劇場
9	26	巡回演劇「宇部芸術座」		下関女子短大付属高校
10	23 24 26~27 27	巡回演劇「劇団のんた」 山口県交響楽団演奏会 県高校総合文化祭(演劇) 県高校総合文化祭(囲碁)		徳山北高校 宇部工業高校 宇部市渡辺翁記念会館 小野田高校
11	18 10 19 19 15~17 21 29	県高校総合文化祭(放送) 山口県交響楽団演奏会 山口県交響楽団演奏会 県高校総合文化祭 (美術・工芸 書道 写真) 巡回演劇「劇団のんた」 木月京子・オペレッタの世界	第1回高文連理事長会	山 口 中 央 高 校 山 口 中 央 高 校 光 丘 高 校 光 高 校 デザインプラザHOFU サンライフ防府 岩国工業高校 盲 学 校
12	18	平成8年度「高文連会報」発行		
1	23~24		全国高等学校文化連盟研究大会	静 岡 県
2	6 4 13		全国高等学校文化連盟理事会 第2回高文連理事長会 第2回高文連企画運営委員会	東京都 フロラシオン青山 山 口 中 央 高 校 山 口 中 央 高 校
3	25	第15回器楽管弦楽スプリングコンサート		山 口 市
【委員会等】 県高校総合文化祭準備(実行)委員会 総合開会式・音楽関係4部門(萩高校) 展示関係3部門(防府高校) 日本音楽、吟詠剣詩舞部門(厚狭高校) 演劇部(サビエル高校) 囲碁部(小野田高校) 放送部(山口農業高校) 将棋部(下松高校).....中国新聞山口支社において開催 各専門部会.....部会長校を中心に開催予定 各専門部研修会.....県下各地において開催予定 【その他】 県高校総合文化祭テーマ・全国高等学校文芸コンクール作品・各種ポスター等の公募 県高校総合文化祭ポスター作成 各種刊行物等の発送				

山口県高等学校文化連盟 【共催】 (山口県芸術祭) 山口県吹奏楽コンクール
(山口県芸術祭) 山口県合唱コンクール
アンサンブルコンテスト山口県大会
全日本アンサンブルコンテスト中国大会
【後援】 第9回全日本マーチングフェスティバル山口県大会

平成 8 年度 山口県高等学校文化連盟会計決算書

(単価：円)

[収入の部]

区 分	予 算 額	決 算 額	増 減 (△ 減)	摘 要
繰 越 金	2,331,900	2,331,900	0	
会 費	19,340,000	19,302,700	△37,300	全日制 350円 定時制・盲・聾・養 50円
学 校 負 担 金	150,100	146,900	△ 3,200	46学級減
補 助 金	11,617,900 (内訳) 2,200,000 9,343,500 74,400	11,617,900 (内訳) 2,200,000 9,343,500 74,400	0 (内訳) 0 0 0	県総文祭県委託金 全総文祭県補助金 全国高文連補助金
調整基金から繰入	0	0	0	
雑 収 入	15,100	4,547	△10,553	利息
合 計	33,455,000	33,403,947	△51,053	

(単価：円)

[支出の部]

区 分	予 算 額	決 算 額	増 減 (△ 減)	摘 要
[運 営 費]	1,350,500	1,285,567	64,933	
事務用品	(内訳) 270,000	(内訳) 225,213	(内訳) 44,787	事務用品、写真、事務機器維持費等
通 信 費	410,000	389,854	20,146	電話 郵便 運送料等
分 担 金	10,000	10,000	0	中国高文連分担金
	246,400	246,400	0	全国高文連分担金
	414,100	414,100	0	全国高文連社団法人化に伴う山口県割り当て
[会 議 費]	2,545,000	2,107,153	437,847	
	(内訳) 440,000	(内訳) 388,413	(内訳) 51,587	県内会議(企画運営委員会 専門部理事長会)
	1,137,000	904,840	232,160	全国会議(理事長会 研究大会 部会長等会議)
	959,000	806,300	152,700	事務局旅費(会長、事務局員の県内・県外会議等)
	9,000	7,600	1,400	監査旅費
[事 業 費]	24,327,000	22,198,283	2,128,717	
県 総 文 祭	(内訳) 7,757,000	(内訳) 7,463,631	(内訳) 293,369	総合開会式 各部門大会開催費
全 総 文 祭	11,850,000	10,386,652	1,463,348	生徒旅費・引率教員旅費1,036万、その他3万
自 主 事 業	1,645,000	1,645,000	0	9公演
大会補助金	50,000	50,000	0	高文連(特殊教育)
専門部会費	1,825,000	1,453,000	372,000	研究費 通信費
印 刷 費	1,200,000	1,200,000	0	高文連集録 高文連会報 県総文ポスター 賞状
[調 整 基 金]	4,000,000	4,000,000	0	
[予 備 費]	1,232,500	420,590	811,910	契約金の変更、部会長の印、弔電等
合 計	33,455,000	30,011,593	3,443,407	

平成 8 年度 調整基金会計決算書

(単価：円)

前年度末現在高	今年度調整基金へ繰入	今年度末残高
0	4,000,000	4,000,000

(収入) 33,403,947円 - (支出) 30,011,593円 = (繰越) 3,392,354円

上記の通り相違ありません。

平成 9 年 4 月 14 日

平成9年度 山口県高等学校文化連盟事業計画

月	日	事	業	会 場
4	10 25		会計監査 第1回高文連企画運営委員会	山口中央高校 山口中央高校
5	9 20 28	山口県交響楽団演奏会	高文連評議委員会 全国高等学校文化連盟評議委員会	下関市 東京都 フロラシオン青山 奈古高校
6	1 5 13 14~15 15 26 27 (下旬) (下旬) (下旬)	1 県高校総合文化祭(将棋) 5 巡回演劇「海峡座」 13 県高校総合文化祭総会開会式 県高校総合文化祭(器楽・管弦楽、合唱、吹奏楽 マーチングバンド・バトントワリング) 15 県高校総合文化祭(日本音楽、吟詠剣詩舞) 山口県交響楽団演奏会 姜建華・楊宝元ジョイントコンサート 平成8年度「高文連」発行 「山口県高文連10年のあゆみ」発行	中国地区高文連関係者合同会議	中国新聞社(山口支社) 三田尻女子高校 シンフォニア岩国 シンフォニア岩国 徳山市文化会館 宇部養護学校 美祿高校 岡山県
8	7~11 8 7~11 30~31	全国高校総合文化祭 第8回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演	全国高等学校文化連盟拡大理事会 全国高等学校文化連盟各専門部会	奈良県 奈良県 奈良県 東京都 国立劇場
9	18 29	巡回演劇「海峡座」 木月京子・オペレッタの世界		厚狭高校 日置農業高校
10	9 3 4~5 26	巡回演劇「宇部芸術座」 山口県交響楽団演奏会 県高校総合文化祭(演劇) 県高校総合文化祭(囲碁)		宇部鴻城高校 鹿野高校 下関市文化会館 防府高校
11	(上旬) 1~3 1 5 9 7~9	全国高校総合文化祭プレ鳥取大会(展示関係・合唱) 巡回演劇「宇部芸術座」 山口県交響楽団演奏会 県高校総合文化祭(放送) 県高校総合文化祭 (美術・工芸 書道 写真)	第1回高文連理事長会	山口中央高校 鳥取県 萩工業高校 県鴻城高校 ニューメディアプラザ山口 徳山市美術博物館
12	(中旬)	平成9年度「高文連会報」発行		
1	29~30		全国高等学校文化連盟研究大会	高知県
2	5 (上旬) (下旬)		全国高等学校文化連盟理事会 第2回高文連理事長会 第2回高文連企画運営委員会	東京都 フロラシオン青山 山口中央高校 山口中央高校
3	(下旬)	第16回器楽管弦楽スプリングコンサート		下関市
〔その他〕 県高校総合文化祭準備(実行)委員会 総合開会式・音楽関係4部門(岩国高校) 展示関係3部門(下松高校) 日本音楽、吟詠剣詩舞部門(徳山高校) 演劇部(下関西高校) 囲碁部(防府高校) 放送部(山口農業高校) 各専門部会 各専門部研修会 主管校において開催予定 部会長校を中心に開催予定 県下各地において開催予定				

平成9年度 山口県高等学校文化連盟会計予算書

[収入の部]

(単価：円)

区 分	予 算 額	前年度予算額	増減(△減)	摘 要
繰 越 金	3,392,354	2,331,900	1,060,454	
会 費	18,710,000	19,340,000	△ 630,000	全日制 350円×53,300人 定時制・盲・聾・養 50円×1,100人
学 校 負 担 金	145,500	150,100	△ 4,600	46学級減
補 助 金	6,939,400 2,200,000 4,665,000 74,400	11,617,900 (内訳)2,200,000 9,343,500 74,400	△4,678,500 (内訳) 0 △ 4,578,500 0	県総文祭県委託金 全総文祭県補助金 全国高文連補助金
調整基金から繰入	0	0	0	
雑 収 入	9,746	15,100	△ 5,354	利息
合 計	29,197,000	33,455,000	△4,258,000	

[支出の部]

区 分	予 算 額	前年度予算額	増減(△減)	摘 要
(運 営 費)	1,300,500	1,350,500	△ 50,000	
事務用品費	(内訳) 250,000	(内訳) 270,000	(内訳) △ 20,000	事務用品、写真、事務機器維持費等
通 信 費	380,000	410,000	△ 30,000	電話 郵便 運送料等
分 担 金	10,000	10,000	0	中国高文連分担金
	246,400	246,400	0	全国高文連分担金
	414,000	414,100	0	全国高文連社団法人化に伴う山口県割り当て
(会 議 費)	1,995,000	2,545,000	△ 550,000	
	(内訳) 460,000	(内訳) 440,000	(内訳) 20,000	県内会議(企画運営委員会 専門部理事長会)
	737,000	1,137,000	△ 400,000	全国会議(理事長会 研究大会 部会長等会議)
	789,000	959,000	△ 170,000	事務局旅費(会長、事務局員の県内・県外会議等)
	9,000	9,000	0	監査旅費
(事 業 費)	20,931,500	24,327,000	△ 3,395,500	
県 総 文 祭	(内訳)8,082,000	(内訳)7,757,000	(内訳) 325,000	総合開会式 各部門大会開催費
全 総 文 祭	6,870,000	11,850,000	△4,980,000	生徒旅費467万・引率教員旅費170万 運送費50万
自主事業	2,274,500	1,645,000	629,500	10公演
大会補助金	50,000	50,000	0	高文連(特殊教育)
専門部会費	1,705,000	1,825,000	△ 120,000	研修費 通信費
印 刷 費	1,950,000	1,200,000	750,000	高文連集録 高文連会報 県総文祭ポスター 10年誌
(調整基金へ繰入)	3,500,000	4,000,000	△ 500,000	
(予 備 費)	1,470,000	1,232,500	237,500	
合 計	29,197,000	33,455,000	△4,258,000	

平成9年度 調整基金会計予算書

(単価：円)

前年度末現在高	今年度一般会計への繰入	今年度末残高
4,000,000	3,500,000	7,500,000

山口県高等学校文化連盟規約

平成元年4月1日改正
平成2年4月1日改正
平成3年4月1日改正
平成4年4月1日改正
平成6年4月1日改正
平成8年4月1日改正

第1章 総 則

(名称)

第1条 この連盟は、山口県高等学校文化連盟と称する。

(事務局)

第2条 本連盟の事務局を山口市宮島町6番1号山口中央高等学校に置く。

(目的)

第3条 この連盟は、高等学校における生徒の創造活動の向上充実を図り、文化活動の健全な発展と芸術文化の振興に資することを目的とする。

(事業)

第4条 この連盟は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事業を行う。

- (1) 山口県内の高等学校による文化行事の開催に関する事業
- (2) 全国高等学校文化連盟が主催する行事への派遣に関する事業
- (3) 芸術文化に関する研修会、講習会、鑑賞会、講演会等の開催に関する事業
- (4) 高等学校等の文化活動に関する調査研究事業
- (5) 高等学校による文化活動の国際交流に関する事業
- (6) その他前条の目的の達成に必要な事業

(組織)

第5条 この連盟は、山口県内の公立及び私立すべての高等学校並びに高等部を設置している盲学校、聾学校及び養護学校をもって組織する。

- 2 山口県内を七つの地域に分け、地域ごとに連合体を組織することができる。この場合において、地域の区分は、山口県高等学校校長会の区分と同じものとする。

第6条 この連盟に、次の専門部を置く。

- 2 専門部は、演劇、器楽・管弦楽、合唱、吹奏楽、マーチングバンド・バトントワリング、日本音楽、吟詠剣詩舞、美術・工芸、書道、写真、囲碁、将棋、放送の各部門とする。

第2章 役 員

(役員)

第7条 この連盟に次の役員を置く。

- | | |
|---------------|----------------|
| (1) 会 長 1人 | (4) 支部長 7人 |
| (2) 副会長 若干人 | (5) 専門部会長 13人 |
| (3) 評議員 94人以上 | (6) 専門部理事長 13人 |
| (会長及び副会長を含む。) | (7) 監 事 2人 |

(役員の選出)

第8条 役員の選出は、次のとおりとする。

- (1) 会長及び副会長は、評議員の互選により選出する。
- (2) 評議員は、加盟校の校長をもって充てる。
- (3) 支部長・専門部会長・専門部理事長は、各地域及び専門部の推薦に基づき、会長が委嘱する。

(4) 監事は、評議員会の推薦に基づき、会長が委嘱する。

2 役員の兼任は妨げない。

(役員の職務)

第9条 役員の職務は、次のとおりとする。

(1) 会長は、この連盟を代表し、会務を統括する。

(2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときはその職務を行う。

(3) 評議員は、評議員会に出席し、この連盟の事業について審議する。

(4) 支部・専門部会長・専門部理事長は、企画運営委員会を構成し、この連盟の会務を審議し、執行する。

(5) 監事は、会計を監査する。

(役員の任期)

第10条 役員は高等学校に在職する者とし、その任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 役員に欠員が生じたときは、必要に応じて補充する。ただし、任期は、前任者の残任期間とする。

第3章 会 議

(会議)

第11条 この連盟の会議は、次に掲げるとおりとし、会長が必要に応じて、これを招集する。

(1) 評議員会 (2) 企画運営委員会 (3) 理事長会

2 会議の議長は、会長がこれに当たる。

3 会議は、構成員の2分の1以上の出席がなければ、開会することができない。

4 会議の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長がこれを決定する。

5 会議に出席できない構成員は、代理人に表決を委任することができる。この場合において、前2項の規定の適用については、会議に出席したものとみなす。

(評議員会)

第12条 評議員会は、次の事項を審議し、決定する。

(1) 規約の制定及び改廃に関する事項 (3) その他連盟の運営に係わる重要事項

(2) 予算及び決算に関する事項

(企画運営委員会)

第13条 企画運営委員会は、次の事項を審議し、決定する。

(1) 評議員から委任された事項 (3) その他連盟の運営に係わる軽易な事項

(2) 会務の運営及び執行に関する事項

2 企画運営委員会に事業の運営及び執行のために委員会を置くことができる。

3 委員会は、事業を主管する学校長を委員長とし、委員として当該事業担当の教職員若干人及び専門教職員をもってこれに充てる。

4 委員会の委員の任命及び委員会議の招集は、委員長が行うことができる。

(理事長会)

第14条 理事長会は、次の事項を審議し、決定する。

(1) 企画運営委員会から委任された事項 (2) その他各専門部の運営に係わる事項

第4章 会 計

(経費)

第15条 この連盟の経費は、各高等学校等の分担金、県内の高等学校等の生徒の会費、補助金、寄付金及びその他の収入をもって充てる。

(予算及び決算)

第16条 この連盟の収支予算は、評議員会の決議により定め、収支決算は、会計年度終了後、監事の監査を経て次の評議員会でその承認を得なければならない。

(会計年度)

第17条 この連盟の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(会計経理)

第18条 この連盟の会計経理の手続きについては、企画運営委員会の議決を経て、別に定める。

第5章 事務局

(事務局)

第19条 この連盟の事務を処理するため、事務局を置く。

(運営)

第20条 事務局の運営に関しては、企画運営委員会の議決を経て、別に定める。

第6章 雑 則

第21条 この連盟の規約の施行について必要な事項は、評議員会の議決を経て、別に定める。

附 則

この規約は、昭和62年4月1日から施行する。

山口県高等学校文化連盟 諸規程

[会計規定]

昭和62年4月1日制定

平成4年4月1日改正

平成5年4月1日改正

平成8年4月1日改正

第1条 この規程は、山口県高等学校文化連盟規約に基づき、会計経理に関し必要な事項を定めるものとする。

第2条 すべての収入、支出は予算に計上しなければならない。

第3条 会長は、収支予算書及び事業計画書の案を作成し、これを評議員会に提出しなければならない。

第4条 会計経理は、収入科目、支出科目及び整理科目を設けて経理の整理をし、現金及び預金出納簿を備え、全ての経理内容を記入するものとする。

第5条 会長は、決算報告書について、監事の監査を受けた後、これを評議員会に提出しなければならない。

第6条 各高等学校は、毎年5月31日までに、会費を納入するものとする。

＜会費内訳＞ 各高等学校生徒一人当たり1年に (全日制生徒) 350円

(定時制、盲、聾、養護学校高等部生徒) 50円

各学校負担金(定時制、盲学校、聾学校、及び養護学校は除く)

学級数×100円

第7条 この規程の執行に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

この規程は、昭和62年4月1日から実施する。

[事務局規程]

昭和62年4月1日制定

昭和62年7月14日改正

第1条 この規程は、山口県高等学校文化連盟規約に基づき、事務局の運営に関し必要事項を定めるものとする。

第2条 事務局に次の職員を置く。

(1) 事務局長

(2) 事務局員 ア 総務係
 イ 庶務係
 ウ 会計係

第3条 事務局長は、会長の命を受け、事務局の事務を統括する。

第4条 事務局員総務係は、事務局長の命を受け、総務・企画・文書・調査研究に関する事項を分掌する。

第5条 事務局員庶務係は、事務局長の命を受け、庶務に関する事項を分掌する。

第6条 事務局員会計係は、事務局長の命を受け、会計に関する事項を分掌する。

第7条 事務局の会計に関する規程その他事務処理上必要な諸規程は、別に定める。

第8条 その他事務局の細目的事項は、会長が別に定める。

第9条 会長が命令する出張等の旅費は、山口県旅費規程に準じて支給する。

附 則

この規程は、昭和62年4月1日から実施する。

[表彰規程]

昭和62年4月1日制定

昭和62年7月14日改正

平成元年4月1日改正

平成2年4月1日改正

平成6年4月1日改正

平成8年4月1日改正

第1条 山口県高等学校文化連盟規約第4条6号に基づく表彰規程を次のように定める。

(表彰の種類)

第2条 本規程に基づく表彰は、次のとおりとする。

(1) 文化功労賞

(2) その他、会長及び企画運営委員会が必要と認めたもの。

(文化功労賞)

第3条 本賞は、山口県高等学校文化連盟の生徒であって、当該年度の卒業予定者を対象として授与する。

第4条 受賞人員は在籍生徒数300名に対し1名の割合を原則とする。

第5条 本賞の受賞者の選考は、当該学校に一任する。

第6条 本賞の受賞者の選考基準は、次のとおりとする。

(1) 人格、識見共に優秀と認める者。

(2)芸術文化活動歴が優秀である者、ただし、その活動は学校の内外を問わない。

第7条 各学校は、受賞者を決定し、別記様式(1)により、本連盟事務局あて報告するものとする。

第8条 本賞の授与は、卒業式に関する行事に際し、施行することを原則とする。

(その他、会長及び企画運営委員会が必要と認めたもの)

(優秀芸術文化賞)

第9条 本賞は、山口県文化連盟加盟校の生徒であって、13部門において、全国大会等で特に優秀な成績をおさめたと認められた個人並びに団体を対象とする。

(功績賞)

第10条 本賞は、山口県高等学校文化連盟加盟校の教職員であって、長年にわたり本連盟の発展に寄与した者を対象とする。

(優秀指導者賞)

第11条 本賞は、山口県高等学校文化連盟加盟校の教職員であって、13部門において、全国大会等で優秀賞を授与され、且つ、長年にわたり部の指導に当たってきた者を対象とする。

第12条 第9条、第10条、第11条の授賞については、高文連企画運営委員会に諮り、これを決定する。本賞の授与は県総文の総合開会式で行うことを原則とする。

附 則

この規定は、昭和62年4月1日から実施する。

[旅費支給基準]

昭和62年4月1日制定

昭和63年4月25日改正

平成元年4月1日改正

- 1 会長が招集する会議等の旅費は、山口県旅費規程に準じて支給する。
- 2 県総文の運営に関する旅費は、委託された主管校から山口県旅費規程に準じて支給する。
ただし、その際の役員日当は1,200円とし、宿泊費は5,000円(内切り)とする。
- 3 全国高校総文祭に関する旅費は、
引率教員は、山口県旅費規程に準じて支給する。
生徒は、[交通費実費(学割・団体制引) + 宿泊費(大会規定料金) × 2泊] × 1/2とする。
※新幹線のみで100km以上の場合は特急指定料金を含む。(ただし県内は除く)
※在来線で100km以上の場合は急行または特急指定料金を含む。(ただし県内は除く)
- 4 専門部会長及び支部長が、県高等学校総合文化祭運営協議会(顧問会議、支部長会議等)を開催する場合は、出席者の在籍する各学校でこれを負担するようお願いする。

平成8年度 山口県高等学校文化連盟役員一覧

職 名	氏 名	支 部 ・ 部 門	所 属 校
会 長 副 会 長 〃 〃	森 本 紘 史 吉 村 洋 輔 天 野 勝 範 宮 本 弘 弘		山 口 中 央 高 校 岩 国 高 校 下 関 西 高 校 香 川 高 校
支 部 長 〃 〃 〃 〃 〃 〃	吉 村 洋 輔 矢 倉 茂 生 桂 雄 三 森 本 紘 史 中 尾 光 宏 松 井 忠 夫 石 村 源 吾	岩 国 支 部 柳 井 支 部 德 山 支 部 山 防 支 部 宇 部 支 部 下 関 支 部 長 北 支 部	岩 国 高 校 柳 井 高 校 德 山 高 校 山 口 中 央 高 校 宇 部 高 校 下 関 南 高 校 萩 高 校
専 門 部 会 長 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	小 林 堅 而 松 井 忠 夫 藤 本 慎 三 桂 雄 三 縄 田 研 吾 五 十 部 益 一 西 岡 尚 一 今 橋 靖 刀 桂 雄 三 橋 本 英 樹 原 田 哲 矢 竹 藤 朔 郎 松 村 旭	演 劇 部 門 器 楽 ・ 管 弦 楽 部 門 合 唱 部 門 吹 奏 楽 部 門 マーチングバンド・パ トントフリング部門 日 本 音 楽 部 門 吟 詠 剣 詩 舞 部 門 美 術 ・ 工 芸 部 門 書 道 部 門 写 真 部 門 囲 碁 部 門 放 送 部 門 将 棋 部 門	下 関 商 業 高 校 下 関 南 高 校 野 田 学 園 高 校 德 山 高 校 宇 部 女 子 高 校 中 村 女 子 高 校 聖 光 高 校 厚 狭 高 校 德 山 高 校 小 野 田 工 業 高 校 小 野 田 高 校 山 口 農 業 高 校 下 松 高 校
専 門 部 理 事 長 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	石 井 末 雄 松 永 忠 雄 石 島 栄 子 椎 木 浩 二 花 村 慈 照 中 野 靖 子 藤 井 美 恵 子 庄 島 信 基 荒 瀬 宏 元 永 百 合 心 竹 内 洋 春 青 木 幸 子 弘 中 敏 之	演 劇 部 門 器 楽 ・ 管 弦 楽 部 門 合 唱 部 門 吹 奏 楽 部 門 マーチングバンド・パ トントフリング部門 日 本 音 楽 部 門 吟 詠 剣 詩 舞 部 門 美 術 ・ 工 芸 部 門 書 道 部 門 写 真 部 門 囲 碁 部 門 放 送 部 門 将 棋 部 門	下 関 商 業 高 校 下 関 南 高 校 野 田 学 園 高 校 德 山 高 校 宇 部 女 子 高 校 中 村 女 子 高 校 聖 光 高 校 厚 狭 高 校 德 山 高 校 小 野 田 工 業 高 校 小 野 田 高 校 山 口 農 業 高 校 下 松 高 校
監 事 〃	浜 村 悦 巳 中 村 祥 典		防 府 商 業 高 校 宇 部 商 業 高 校
事 務 局 長 総 務 会 計 庶 務 会 計 〃	中 邑 立 夫 角 中 悦 太 郎 田 村 知 津 子 大 黒 昌 子		山 口 中 央 高 校 山 口 中 央 高 校 山 口 中 央 高 校 山 口 中 央 高 校

平成9年度 山口県高等学校文化連盟役員一覧

職 名	氏 名	支 部 ・ 部 門	所 属 校
会 長 副 会 長 〃 〃	森 本 紘 史 吉 村 洋 輔 天 野 勝 範 宮 本 弘		山 口 中 央 高 校 岩 国 高 校 下 関 西 高 校 香 川 高 校
支 部 長 〃 〃 〃 〃 〃	吉 村 洋 輔 矢 倉 茂 生 桂 雄 三 森 本 紘 史 木 村 良 樹 松 井 忠 夫 浜 田 紀 郎	岩 国 支 部 柳 井 支 部 徳 山 支 部 山 口 中 央 高 校 宇 部 高 校 下 関 南 高 校 萩 高 校	岩 国 高 校 柳 井 高 校 徳 山 高 校 山 口 中 央 高 校 宇 部 高 校 下 関 南 高 校 萩 高 校
専 門 部 会 長 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	今 橋 靖 刀 松 井 本 夫 藤 本 垣 良 夫 檜 垣 田 研 吾 繩 田 雄 三 桂 (休 部) (今 休 部) 竹 橋 靖 刀 桂 田 信 義 松 本 雄 三 竹 藤 凱 行 中 村 勇 郎 夫	演 劇 部 門 器 楽 ・ 管 弦 楽 部 門 合 唱 部 門 吹 奏 楽 部 門 マーチングバンド・パ トントワリング部門 日 本 音 楽 部 門 吟 詠 剣 詩 舞 部 門 美 術 ・ 工 芸 部 門 書 道 部 門 写 真 部 門 囲 碁 部 門 放 送 部 門 将 棋 部 門	厚 狭 高 校 下 関 南 高 校 野 田 学 園 高 校 華 陵 高 校 宇 部 女 子 高 校 徳 山 高 校 (休 部) 厚 狭 高 校 山 口 高 校 徳 山 高 校 防 府 高 校 山 口 農 業 高 校 下 松 高 校
専 門 部 理 事 長 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	三 藤 真 人 松 永 忠 雄 石 島 柴 子 和 田 栄 明 花 村 慈 照 河 村 加 南 子 (休 部) (庄 島 信 基 古 屋 元 子 藤 川 明 徳 井 口 秀 是 青 木 幸 子 弘 中 敏 之	演 劇 部 門 器 楽 ・ 管 弦 楽 部 門 合 唱 部 門 吹 奏 楽 部 門 マーチングバンド・パ トントワリング部門 日 本 音 楽 部 門 吟 詠 剣 詩 舞 部 門 美 術 ・ 工 芸 部 門 書 道 部 門 写 真 部 門 囲 碁 部 門 放 送 部 門 将 棋 部 門	厚 狭 高 校 下 関 南 高 校 野 田 学 園 高 校 華 陵 高 校 宇 部 女 子 高 校 徳 山 高 校 (休 部) 厚 狭 高 校 山 口 高 校 徳 山 高 校 防 府 高 校 山 口 農 業 高 校 下 松 高 校
監 事 〃	中 村 祥 典 野 村 稔		防 府 商 業 高 校 宇 部 商 業 高 校
事 務 局 長 総 務 課 庶 務 課	中 邑 立 夫 角 中 悦 太 大 黒 昌 子		山 口 中 央 高 校 山 口 中 央 高 校 山 口 中 央 高 校

全国高文連の歌

全国高等学校文化連盟制定

向 川 栄 美 作詞

乗 松 美 紀 作曲



1. てをのばせば ほら きっとだれかがささえてくれる
2. よびかければ ほら きっとだれかがこたえてくれる



みーわたせーば ほら なかまがいつでもそばにいる きみ
こころをひらけ ば ほら なかまがいつでもまっている きみ



は ひとりじゃない さあ ある きだ そ う
は ひとりじゃない さあ は ばた こ う



はくらのぶんか を つく る ため ー に
はくらのぶんか を きず く ため ー に

全国高文連の歌

一、手を伸ばせば ほら

きっと誰かが支えてくれる

見渡せば ほら

仲間がいつでもそばにいる

君は一人じゃない

さあ 歩きだそう

僕等の文化を創るために

二、呼びかければ ほら

きっと誰かが応えてくれる

心を開けば ほら

仲間がいつでも待っている

君は一人じゃない

さあ 翔はばたこう

僕等の文化を築くために

山口県高等学校文化連盟「高文連」編集委員

(各 部 門)

合 唱	石 島 栄 子 (野田学園高等学校)
マーチングバンド・ パトントワーリング	花 村 慈 照 (宇部女子高等学校)
器楽・管弦楽	松 永 忠 雄 (県立下関南高等学校)
吹 奏 楽	椎 木 浩 二 (県立徳山高等学校)
演 劇	石 井 末 雄 (下関商業高等学校)
日 本 音 楽	中 野 靖 子 (中村女子高等学校)
吟詠剣詩舞	藤 井 美恵子 (聖光高等学校)
美術・工芸	庄 島 信 基 (県立厚狭高等学校)
書 道	荒 瀬 宏 (県立徳山高等学校)
写 真	元 永 百合心 (県立小野田工業高等学校)
囲 碁	竹 内 洋 春 (県立小野田高等学校)
将 棋	弘 中 敏 之 (県立下松高等学校)
放 送	青 木 幸 子 (県立山口農業高等学校)

(事 務 局)

事 務 局 長	中 邑 立 夫 (県立山口中央高等学校)
総 務	角 中 悦太郎 ()
庶 務 会 計	田 村 知津子 ()
シ	大 黒 昌 子 ()

平成 8 年度
山口県高等学校文化連盟集録
「 高 文 連 」

編集・発行 山口県高等学校文化連盟事務局
〒753 山口市宮島町 6-1
山口県立山口中央高等学校内
電話・F A X 0839-32-0818

